

全国54,000人の“海の救難ボランティア”の活動を支えます。

## 「青い羽根募金」にご協力を



「青い羽根募金」は、  
海の救難ボランティアの  
活動を支えています。  
皆様の協力をお願いします。

青い羽根募金アドバイザー  
城島 健司 さん

### ■募金の方法

#### 口座振込みによる募金

##### 郵便局

口座番号 00120-4-8400  
加入者名 公益社団法人 日本水難救済会

##### 銀行

三井住友銀行 日本橋東支店  
口座番号 (普)7468319  
加入者名 公益社団法人 日本水難救済会  
青い羽根募金口

#### インターネット募金

青い羽根募金



- ホームページから以下の方法で募金  
ができます。
- クレジットカードはMasterCard、  
VISA、JCB、AMEXがご利用で  
きます。
- NTTコミュニケーションズが提供す  
るネット専用電子マネー「ちよコム」  
がご利用できます。

● お問い合わせ先 ☎0120-01-5587

募金フリーダイヤルでお申し出ください。振込料無料の専用郵便振替用紙をお送りします。



公益社団法人 日本水難救済会

〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目5番地 海事センタービル7階

TEL: 03-3222-8066 FAX: 03-3222-8067

<http://www.mrj.or.jp> E-mail [V1161@mrj.or.jp](mailto:V1161@mrj.or.jp)

平成24年度 助成事業

Supported by 日本 THE NIPPON  
財団 FOUNDATION

# マリンスキュー ジャーナル

Vol 105 No 1  
2013年1月号

特集 マリンレスキュー紀行

海の安全・安心を支える

## ボランティアたちの群像

公益社団法人 琉球水難救済会 南大東救難所

## 青い羽根募金 活動レポート 2012



MRJ歴史探訪シリーズ 第8回

## ボランティア精神の 源を訪ねて



公益社団法人 日本水難救済会

マリンスキュージャパンは、(公社)日本水難救済会の愛称です。

## 名誉総裁 年頭挨拶



新年明けましておめでとうございます。

本年も、全国の救難所員の皆様が、  
海上における、人命、船舶の救済に力を尽くし、  
海上産業の発展と海上交通の安全確保に  
寄与されますとともに、  
国民の皆様から益々信頼され、  
発展を遂げられますことを願っております。

平成25年1月1日  
公益社団法人 日本水難救済会  
名誉総裁 憲仁親王妃久子

## 年頭挨拶



公益社団法人 日本水難救済会  
会長 相原 力

平成25年の年頭にあたり  
海上の安全と安心のための  
皆様のご活躍を祈念申し上げます。

平成25年の年頭にあたり、全国の救難所・支所の救難所員とその活動を支えておられるご家族の皆様をはじめ、洋上救急や青い羽根募金活動に携わっていただいている皆様に、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

まず、全国の救難所員等の皆様におかれましては、昼夜を問わず海難救助出動等にご尽力をいただいております。海の現場での救助活動は荒天の中での作業を余儀なくされ、突然、予期しない困難が急に降りかかるなど、救助活動をされる救難所員の方々に危険が迫ることが多く、そのご苦労は大変なことと思います。

日本水難救済会は明治22年の創設以来、平成24年までに救難所員の皆様の活躍により全国で累計195,164人の人命を救助してきた実績を誇っており、昨年は12月末までに全国で366件の海難に対応し、286名、149隻を救助し、沿岸における海難救助に多大な成果を上げることができました。偏に、これまで水難救済に携わられてきた皆様の崇高なボランティア精神に依るものでありますが、今後とも事故防止に留意し活動されますようよろしくお願いいたします。

また、洋上救急は、昭和60年にこの制度が発足してから昨年12月末までに延べ765件の出動が行われております。昨年は24件の事案に対応しましたが、海上を活動の場とする船員やそのご家族の安心をもたらすものとして、関係の皆様からも高く評価されており、今後とも一層の充実を図って参る所存でございます。

青い羽根募金につきましては、昨年は、海上保安庁をはじめ、国土交通省、水産庁、防衛省などの国の機関のほか、各種企業や海洋少年団などのご協力

をいただきました。お陰様で、青い羽根募金活動はもとより青い羽根募金支援自動販売機の設置箇所が増もあり、多大な成果がございました。関係の皆様にお礼を申し上げますとともに、さらなる拡大を期待しているところです。

日本水難救済会は、海上保安庁をはじめ、関係省庁、都道府県、日本財団や日本海事センターその他の諸団体のご指導ご支援により事業を運営しているところですが、全国41の地方水難救済会に所属されています約54,000人のボランティア救助員のご支援のため、本年も的確な運営を推進していく所存でございますので、よろしく願い申し上げます。

地方水難救済会をはじめ、各救難所・支所の皆様およびご家族のご健勝とますますのご発展をご祈念申し上げ、新年の挨拶といたします。



海上保安庁  
長官 北村 隆志

平成25年の年頭にあたり  
謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

(公社)日本水難救済会におかれましては、明治22年の創設以来、崇高なボランティア精神のもと、123年の長きにわたり水難救済事業を展開され、これまでに、約19万5千名に及ぶ尊い人命と約3万9千隻の船舶を救助するなど、輝かしい歴史と伝統を築き上げてこられました。

これも一重に、尊い人命のため、献身的に救助活動に従事されている全国各地約5万4千名の救難所員の方々や、その活動をご支援いただいているご家族をはじめとする関係者の皆様の地道な努力の賜物であり、心から敬意を表す次第であります。

昨年は、香港活動家による魚釣島不法上陸事案、活発化する中国公船への対応等、尖閣諸島周辺海域における海上保安庁の領海警備業務が社会的に注目される一方、10月に発生した沖縄本島南東沖での貨物船火災においては一度に中国人64名を救助する等、的確に船舶海難や海浜事故等に対応してきたところであります。今後も尖閣諸島を巡る厳しい情勢は続くと思われませんが、海難救助は当庁の根幹業務であるとともに人命に直結する業務であるため、引き続き的確に実施していく所存であります。

さて、海上保安庁では、巡視船艇・航空機の整備・高性能化を図るとともに、ヘリコプターからの降下、潜水、救急救命といった救助技術を有した機動救難士を全国の主要航空基地に配置し、捜索救助体制の充実強化に鋭意取り組んできましたが、広大な我が国沿岸域において多発する船舶海難や海浜事故等への初動対応は、官民が連携した救助体制が不可欠であります。

そのような中、全国津々浦々1,200カ所余りに配置され、局地的な地理的環境、気象・海象を熟知し、迅速な救助活動を行う水難救済会の存在は、海で遭難した被災者のみならず、我々海上保安庁にとって

も誠に頼もしく、なくてはならないものです。

また、洋上救急事業におきましても、昭和60年の運用開始から28年目を迎え、通算の出動件数が760件を数える大きな実績を残され、内外からも高い評価を受けているところであります。

これは、制度の創設以来、事業の実施主体であります日本水難救済会、事業の推進にご尽力いただいております関係機関および関係団体、本来業務多忙の中、日夜を問わず、往診等の労にあたっただけでいる協力医療機関の医師・看護師の方々など、関係各位の多方面にわたるご支援と献身的なご協力により成り立っているもので、改めて心から敬意を表する次第であります。

このほか、「若者の水難救済ボランティア教室」の開催や、海中転落事故多発地域に救命浮環を設置する「ライフリング事業」等、地域における海難の予防にも多大な貢献をいただいております。

このような日本水難救済会の関係者の皆様の崇高かつ献身的な活動に対し、海上保安庁といたしましても、全面的に支援させていただくとともに、綿密な連携のもと、海上における尊い人命および財産の救助に万全を期していく所存ですので、引き続き皆様方のご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

最後に、全国各地において、人命救助という崇高な使命のもと、日夜ご活躍されている救難所員、医師、看護師等関係者の皆様のご健勝と、日本水難救済会の一層のご発展を祈念いたしまして、私の新年の挨拶とさせていただきます。



公益社団法人 日本水難救済会  
理事長 向田 昌幸

真新しきメ縄を押し  
“へび”の如く一皮むいて新たな一步を！

新年 明けまして おめでとうございます。

年頭にあたり、日頃から全国の津々浦々で昼夜を問わず水難救済活動に勤しんでおられるボランティア救助員の皆様をはじめ、捜索救助のプロとして惜しみないご指導ご支援をいただいている海上保安庁および臨海自治体や消防・警察の皆様、そして洋上救急医療事業に献身的にご参画ご協力をいただいている医療機関や海上・航空の両自衛隊の皆様に対し、深く敬意と謝意を表させていただきます。

また、本会が推進する地先沿岸海域における水難救済事業や、遙か沖合海域での洋上救急事業に対し、いつも心強いご賛同とご支援を賜っている海事・漁業関係業界団体はもとより、慈善事業や社会貢献にご理解のある多くの市民や企業、そして医療関係機関の皆様にご心よりお礼申し上げます。

さて、最近では尖閣問題が緊迫の度合いを増してきており、海上保安庁では限られた現有勢力を総動員し組織を挙げてその対応に追われていると承知しています。それだけに、沿岸海域の海上保安体制にも全国的に少なからず影響が出てくるのではないかと懸念されますところ、本会および臨海都道府県の地方水難救済会といたしましても、その分、今年は例年にも増して一段と気を引き締めていかねばなりません。

“ボランティア”と言えば、ラテン語を語源とし、自発的な無償奉仕や自己献身的な活動をする人を指すようですが、わが国でも特に平成7年の阪神・淡路大震災を機に、最近では単に助ける人と助けられる人との個人的な関係の無償奉仕活動だけでなく、企業や団体などの組織的なものや公共的なもの、そして有償や互惠的なもの等々、様々な形で社会に幅広く普及し進化してきたように思います。しかし、そんな中であっても、明治22年に讃岐の金刀比羅宮にて

本会の礎が築かれて以来、長い歴史と伝統を誇るボランティア精神に基づく本会の水難救済活動は、今なおわが国におけるボランティア活動の先駆的で模範的な地位を保っていると自負しています。

東日本大震災からまもなく2年を迎えます。東北地方の太平洋沿岸を中心に多くの救助員の方々が犠牲になられ、各地の救難所も甚大な被害に見舞われましたが、本会の推進する支援事業により、微力ながらも復旧復興に向けた貢献ができましたのは多くの慈悲深い人々の惜しみないご厚情の賜物であり、心から感謝申し上げる次第です。

自然災害の絶えないわが国では、今後いつまた天変地変に見舞われるかも知れません。南海・東南海・東海地震や首都圏直下型地震などにも備えなければなりません。そこで、すでにご高承のとおり、本会では3年前に定款を改正し、日常的な水難事故だけでなく、大規模災害の発生時における災害救援活動を事業の一つに加えております。各地方の水難救済会におかれましては、関係機関と共に地域防災計画の中に名を連ね、日頃から積極的に防災訓練に参画され、災害に備えていただければ幸いです。

今年は中国文化が起源とされる干支(えと)で言えば、へび(癸巳)年ですが、なぜか十二支には海にちなんだ生き物が見当たりません。今の中国は国を挙げて海洋進出を目指していますが、干支を見る限り、古来の中国は海との縁が希薄だったのかもしれませんが、しかし、そんな中国はともかく、日本は島国として古来より海に依って立ってきたはずなのに、干支が日本文化の中に同化していく過程で、どうして海にちなんだ生き物が採用されなかったのだろうか、と、少し残念に思います。そんなことに想いを巡らせつつも、若者の水難救済ボランティア教室を通じ、次世代を担う子どもたちには、本会の素晴らしい伝統である海のボランティア精神を一人でも多く受け継いでほしいものと切望するとともに、皆様と共に繁栄の象徴“へび”にちなんで真新しいメ縄を押し、一皮むいて少しでも大きく成長して参りたいと祈念して、年頭のごあいさつといたします。

- 01 名誉総裁 年頭挨拶
- 02 公益社団法人 日本水難救済会 会長 年頭挨拶
- 03 海上保安庁 長官 年頭挨拶
- 04 公益社団法人 日本水難救済会 理事長 年頭挨拶
- 06 特集 マリンレスキュー紀行

## 海の安全・安心を支えるボランティアたちの群像

公益社団法人 琉球水難救済会 南大東救難所

- 10 全国救難所のお膝元訪問  
ニッポン港グルメ食遊記【沖縄県南大東村／南大東村漁業組合】

- 11 MRJ 歴史探訪シリーズ 第8回

## ボランティア精神の源を訪ねて

なぜ、こんびらさんが「海の神さま」なのか

- 15 青い羽根募金活動レポート2012

平成24年度 青い羽根募金強調運動／青い羽根募金支援自動販売機の設置状況／青い羽根募金活動／「青い羽根募金」を原資としたライフリングプロジェクト／青い羽根募金による救難資器材の整備／マスコットキャラクターデザインの募集

- 19 水難救済思想の普及活動レポート

- 23 マリンレスキューレポート

Part1 救難所 NEWS 海難救助訓練ほか／新設救難所の紹介／水難救助活動報告

Part2 洋上救急 NEWS 洋上救急活動報告／洋上救急慣熟訓練

- 36 MRJ 互助会通信

- 39 MRJ フォーラム

(公社)日本水難救済会 平成24年度第2回理事会開催／佐賀県水難救済会唐津マリン救難所に救助船を配属  
投稿(昭島市立つつじが丘南小学校 石川校長)

- 42 編集後記

表紙：公益社団法人 琉球水難救済会 南大東救難所の皆さん



マリンレスキュー紀行

# 海の安全・安心を支える ボランティアたちの群像

公益社団法人 琉球水難救済会 南大東救難所

南大東島の北部に位置する南大東漁港。左に位置するのが漁船の上げ下ろしを行うクレーン

## 沖縄本島から遠く離れた海で 人々の命を守るため。

## 「琉球水難救済会68番目の救難所」が誕生

取材：常務理事 上岡宣隆 取材協力：南大東村漁業組合

### 沖縄本島の東に浮かぶ島 「南大東島」

気象通報などで「南大東島」の名はよく耳にするものの、その詳細はあまり知られていないのではなかろうか。この島は、文政3(1820)年にロシア海軍佐官ポナフィディンが指揮するロシア艦船ボロジノ号によって発見された。その後、明治18(1885)年に沖縄県庁にて探検が行われ、日本国標が建てられて日本国に属することとなった。数年後、本島の開拓を希望する者が続出したが、島の周囲が険峻で上陸を断念したり、上陸しても物資を放置して引き返したりなど、いずれも失敗に終わった。明治33(1900)年に至って玉置半右衛門氏が郷里八丈島の有志を募り総勢23名で上陸、開拓の

一歩を印した。入植以来10年、2次3次の入植者により絶海の無人島では開拓者の苦闘が報いられ、豊穡楽土の地を築くに至った。現在でも開拓当初から生産されていたサトウキビが主要な作物として島の経済を支えている。言語も沖縄本島のものとは若干異なり、八丈と沖縄との文化が融合して花開いている。

南大東島はフィリピン海プレートの上であり、標準的珊瑚礁の隆起したもので東西5.78km、南北6.54km、周囲20.8kmの短楕円形をなす。海岸線から内側にかけて環状に露出した岩石地帯があり、この地帯を利用して二重三重の防風・防潮林が設けられてサトウキビ畑を囲んでいる。山はなく、一番高いところが75.8mで大体平坦地となっている。



南大東島はフィリピン海プレートの上にあることから毎年約5cm、琉球海溝方向へ移動を続けている。また、珊瑚の島ならではのカルスト地形による国内有数の湖沼群を有している。1ha以上の天然の湖沼14個は、石灰岩の中の炭酸カルシウムが溶けてできるカルスト地形がもたらしたもの。島民は夏から秋にかけての台風シーズンには天気予報に耳を傾け一喜一憂するが、反面台風が少ないと高温な天気が続く干ばつとなるため、これまた恐れる。島への往復は、人員は毎日2便の飛行機で、また生活物資は那覇市泊港から出港する貨客船で運ばれる。



南大東漁港全景と出漁中の漁船

### 海人に出会う

岸壁からもマグロが釣れる島。島の周りすべてがそのように豊かな漁場で、海人の活動の場は漁港から出ですぐから続く島の周りである。深さ1,000mの海底から切り立ったような地形により、島全体が浮漁礁のようにになっている。島の漁師は夜明け前に出漁すると、午前中には魚艀をマグロやサワラなどで満杯にして

帰港する。波浪2m以下の天気なら毎日でも漁に出る。

南大東島は島の周辺に砂浜がなく、切り立った断崖絶壁となっている。平成元(1989)年から12年間をかけて「掘り込み式漁港」を整備し、多くの漁船が港から出入港できるようになった。この港から出港すると、1分後にはマグロなど大型回遊魚の漁場に到着する。この表現は決してオーバーなものではなく、島の周辺全体



入港した漁船をクレーンで吊り上げる様子



「マグロの神様」宮城栄蔵さん。船にはこの日もマグロが

がまぎれもなくマグロなど回遊魚の漁場なのだ。

取材当日も漁港の沖に数隻の漁船がいた。遠方に行かなくとも漁獲があることから、多くは比較的小さな漁船で大海原に出る。「マグロの神様」と海人仲間から尊敬されている宮城栄蔵さんの船がクレーンで吊り上げられていた。「マグロ、シイラ、サワラ、ナワキリ、ムツ、ソデイカ……いろんな魚が獲れますよ。今日のマグロは小さいです。」声をかけると気

さくに答えて下さった。80歳になる、南大東島の長老、宮城さん。「自分と同じ重さのマグロを船外機付の船に引き揚げるまで漁を続けます。」と明るく話される様子が印象に残った。

### 日本最南東の救難所

北大東島・南大東島と沖大東島の三島を総称して「大東諸島」というが、今回は諸島で一番大きい南大東島に救難所が設置されることとなった。台風発生のたびに全国放送で耳にする「南大東島」は黒潮のまっただ中にあり、太平洋の激しい風浪にさらされる人口1,300名の絶海の島。沖縄本島や奄美大島から約400kmも離



救難所長の知念修さん。豊富な経験を救助活動に活かす



長老格の宮城栄蔵さん。周辺海域の状況を熟知している

れたこの海域では、ひとたび海難事故が発生すると公的な救助機関の到着に相当な時間がかかるため、地元の漁船の出動が欠かせない。漁民の救難活動は島への移住の歴史が始まった110年も前から黙々と行われていた。このような状況の中、沖縄本島と大東島を結ぶ貨客船から乗客が海中転落する事案が発生して北大東島から多くの漁船が捜索に出動することとなり、その事後処理から「救難所」の設置がクローズアップされた。南大東村村長の仲田健彦さんが



クレーンオペレーターの喜友名朝金さん。安全への意識も高い

らの強い要請と、琉球水難救済会の迅速な決断により、今回の救難所設置に結びついた。

そして南大東救難所が琉球水難救済会68番目の救難所として平成24(2012)年12月13日に新設された。琉球水難救済会にとっては実に50年ぶりの、漁組を母体とする救難所である。救難所長(漁業組合代表理事・組合長)の知念修さん以下総勢32名、救助船25隻の所帯であり、知念さんのリーダーシップに率いられた救難所員全員が張り切って海難事故ゼロを目指す。



救難所設置に尽力した、琉球水難救済会の浅野貞雄常務理事

大東の漁師は創意工夫に長けている。この点についても八丈島から開拓に来た精神が脈々と受け継がれているようだ。今回の取材ではお会いできなかったが、組合の長老奥山嘉保さんはマグロ漁のこませを発明して流行らせたし、後出の菊池さんはかつてマグロ漁にはムロアジの生き餌を使っていたがジギングを持ち込



平成24年12月13日に行われた南大東救難所の設置式の様子

み、今では皆がそれを利用している。

海の事故防止についても、ベテランの高い意識が漁師仲間に浸透している。長老の宮城さんは「これまで海難には何度か遭遇し、捜索などを行ってきました。命の安全は機械にかかっているの船の点検は欠かせません。救命胴衣も着けています。」と語った。南大東村漁業組合所属の船は多くが小型であることから、出漁の度にクレーンで吊り下ろす。クレーンオペレーターを長年続けてきた組合理事の喜友名朝金さんに話を伺った。「昨年は立て続けに3件海難が発生しました。海釣りに来た人が行方不明となり捜索に出た事案が1件、西港から人が海中に転落したものの台風の余波で出動できなかった事案が2件目。3件目は大東丸の客が行方不明となり捜索に出たものです。近年観光客が多くなってきたこと、ソデイカ漁やマグロ漁業が大東島近海で操業されるようになったことから、海難事故も増加傾向にありました。琉球水難救済会の浅野常務理事の働きかけなどもあって水難救済ボランティアの仕組みを知り、組合員32名25隻の漁船で救難所を設置しようということになったんです。」苦労は？と聞きすると、「毎朝4時にクレーンで漁船を下ろし、9時と12時に吊り上げます。年中休みはありませんが、もう慣れました。」と笑みを浮かべられた。

「漁師にとっては丘の方が、車を横付けして氷を積み込んだり魚を下ろしたりするのに便利なんです。」と淡々と語る喜友名さんには、もう一つ大切な仕事がある。時間がある時には安全の確保のため、漁師みんなの漁船に設置されている吊り上げ用ロープを確認しに行っているとのこと。漁船を1隻ずつ上げ下ろすためその動静をしっかりと把握しており、異常の有無をいち早く押さえることができている。漁師と一体となって安全に気配りをしている様子がかがえる。まるで大東の「漁業の管理人」である。

## 安全にかける思い

菊池義郎組合理事は13年前に東京からUターンして、父親の漁師の仕事を見てきたこともあり、1年ほどでマグロ漁の腕を上げた。4tの漁船でソデイカを獲っていたが、現在はその漁船を駆使してマグロ専門で漁業を行っている。燃料費が高いためで運営は厳しいとのこと。

「海難救助は二次遭難が発生しないようにしなければなりません。捜索に出てもこのあたりはすぐに深くなり、黒潮が流れていることもあって発見は難しいのですが、依頼を受ければ出て行きます。行方不明などが発生すれば村全体が動くんです。島民は海岸沿いを歩き、漁師は船で出ます。今後は訓練などにも力を入れていきたいと考えています。」



若手として、救難活動のけん引役が期待される菊池義郎さん



「大東一の三線名人」濱里保之さんと浅野常務理事が合奏

「ソデイカやマグロ漁のため、宮崎や本島、鹿児島からも船が来るようになりました。避難港になっているため、事故の発生も懸念されます。現に島外船の座礁なども発生しています。」と発展に伴う心配をしながら、「昔は船団を組んでいましたが、パヤオ(ウキ漁礁)が入ってからはポートに一人が乗って漁に出ることが多くなっています。これまで何も無いのが奇跡だと思っているんです。事故防止について意識を高めていきたいので、組合から名前つきの救命胴衣を皆にプレゼントしようと考えているところです。」と今後の取り組みについて明かしてくれた。

## 南大東島は別天地

南大東島の人口は大正10(1921)年頃には4,400人を数えていたが、現在では1,300人まで減少している。子供達は多いが本島に高校がないため、その年代の若者が島を出ることも人口に影響している。

空気が良く、亜熱帯海洋性気候の島。豊かな自然と穏やかな人情。子供達は島の宝として、南大東島の太陽と潮風に包まれながら、皆で育てる。島民は1,300人一人ひとりの名前や周辺の事情まで知っている。南の別天地が、そこにあった。

全国  
地方救難所の  
お膝元訪問

# ニッポン 港グルメ食遊記

各地の救難所を訪れ、そのお膝元である港ならではの美味をご紹介しているこのコーナー。今回は、琉球水難救済会 南大東救難所を訪問した上岡常務理事が、南大東島の「旨いもん」をレポートします。

南の海の旨みを存分に味わえる

## マグロ・ナワキリ

今回の取材で、漁業組合において地のものをいただくことができた。

南大東島において先ず挙げなくてはならないのが「マグロ」。当地では本マグロ、キハダマグロ、ピンチョウマグロなどがあがる。大東でとれるマグロは沖縄本島に生で出荷されるため大変な人気。昨年は135kgの本マグロがあがったが島民の視線に耐えきれず、島内で消費したとのこと。マグロは釣りとただと身が生きていてゴムのような食感のため、1日ほどおいたものがよいという。庭からもいできたシークワサーの果汁を垂らし、わさび醤油で食べると風味が格段に増し、絶品。

また本島で一般的に食べられているのが、水深150~200mあたりで獲れるナワキリというカマスの仲間。餌は何でもよく、同じナワキリの切り身でもムロアジでも釣れる。大型の魚でありながら小骨が多く、食べるのには少々苦労するものの、身はしっとりとして旨味があり、やみつきになる。塩焼きなどが一般的だが、取れたてを刺身(骨を直角に切り刻むように薄く切る)にすると小骨も気にならない。これを酢醤油で食すのがもっとも旨味を引き出してくれる食べ方だそう。

食通としては、大東そばと大東寿司も紹介せずにはおれない。今回立ち寄った在所の「富士食堂」はこれを出してくれる地元の有名店。看板もなく民家のような店であったが、店内は広くそばも自家製。大東そばは太めの縮れ麺に魚介ベースのあっさりしたスープ。豚の角煮が添えてあるが沖縄本島のソーキそばほど脂っこくなく、旨い。大東寿司はサワラの漬けを握ったもの。大東そばと大東寿司をセットでいただいた。



マグロの刺身。もぎたてのシークワサーを添えて



南大東島の食卓で親しまれているナワキリ



ナワキリの刺身。薄切りするのが食べ方のポイント



郷土料理の大東そばと大東寿司

ボランテニア精神の源を訪ねて……⑧  
なぜ、こんぴらさんが「海の神さま」なのか

新年あけましておめでとうございます。  
平成二十五年癸巳。今年も皆様にとりまして実りの多い幸せな一年でありますようお祈り申し上げます。

おかげさまで連載8回目を迎えます「歴史探訪」シリーズ。これまで書院や海難絵馬、旭社など金刀比羅宮に伝わる貴重な文化財をご紹介させていただきましたが、今回は金刀比羅宮の歴史や由緒を踏まえ、なぜ、こんぴらさんが「海の神さま」なのかをご説明申し上げたいと思います。

◆素朴な疑問◆

ご参拝の皆様からよく「こんぴらさんは海の神さまなので、もっと海の近くにあるのかと思っていた。」「海の神さまなのに、なぜ山にあるの？」と質問されることがあります。海と山、そして海の神さま“こんぴらさん”と山の関係が、なかなか繋がらないようなのです。私は次のように順を追ってご説明申し上げます。

◆ご祭神について◆

まずはじめに金刀比羅宮のご祭神について。金刀比羅宮のご祭神は「大物主神」と「崇徳天皇」の二柱の神さまです。二柱の神さまを合わせ祀り「金刀比羅大神」と称します。

大物主神は日本の国造りに励まれた神さまで、当宮が鎮座する琴平山はその拠点と伝わります。

この由緒地に創建されたのが当宮です。古くは「琴平社」あるいは「琴平神社」と呼ばれていました。

「保元の乱」と呼ばれる平安末期の政治抗争に巻き込まれ、讃岐国(香川県)に配流された崇徳天皇。天皇は配流中、特に当宮を篤く崇敬されました。

当宮境内には崇徳天皇参籠跡と伝わる旧跡が存在します。崇徳天皇は帰京の悲願叶わず長寛二(1164)年に崩御されましたが、所縁も深い当宮ではお寂しい御生涯をお偲び申し上げ、翌年の永萬元(1165)年に御霊をお祀り申し上げたといわれます。



◆御本宮高台からの眺望  
本宮の北東側は、高台が広がり、展望台になっています。ここからの眺めは絶景です。讃岐平野の彼方に瀬戸大橋や讃岐富士などを望むことができます。



◆竜王社  
噴火口跡にできたといわれる竜王池に鎮座する社。水の神である罔象女神(みずはのめのかみ)、天水分神(あめのみくまりのかみ)、国水分神(くにのみくまりのかみ)をお祀りします。古くから祈雨の神として知られていました。

◆金毘羅大権現◆

大陸から伝来した仏教は日本古来の神社のあり方を根本から変えてしまいました。平安時代以降、日本の神さまは仏さまに比定されるようになります。これを「神仏習合」思想といいます。当宮も例外ではなく、ご祭神の金刀比羅大神は仏教由来の神さまである金毘羅(宮毘羅)大将と同一視され「金毘羅大権現」と呼ばれるようになりました。「権現」とは「権(仮)に(神仏として)現れる」という意味で、神さまのご称号である「神号」として各地の神仏習合の寺社で使われました。神仏習合の教えは明治まで続きますから、“こんぴらさん”は実に長い間“金毘羅大権現”と呼ばれていたこととなります。“こんぴらさん”の名称は諸説ありますが“金毘羅大権現”の“金毘羅”に因むという説が有力です。

◆水神◆

当宮の鎮座地である「琴平山」は古くから蛇神(=龍神)が住まう神聖な山として人々から篤い崇敬を受けました。一説には山そのものが神さまだといわれています。いわゆる「神体山」信仰です。ちなみに、江戸時代の書物には、当宮のご祭神は大和三輪(奈良県)の神と同一であると書かれています。大神神社も同じく大物主神さまをお祀りし



◆高燈籠  
慶応元(1865)年、香川県寒川郡の萬歳講より献納。当時は、瀬戸内海を航行する船の指標でした。重要有形民俗文化財。

ており、蛇神の伝説や伝承が数多く伝わります。大物主神さまは蛇神(=龍神)ともみなされていたようです。当時の「琴平山」は、山頂付近に湧く雲気が神秘的なこと、またその雲気が農耕に欠かせない恵みの雨をもたらすので、豊穡祈雨の神様が住まうと考えられていたようです。金毘羅(宮毘羅)大将の起源は古代インドのバラモン教の神「クンピーラ」だといわれています。「クンピーラ」はガンジス河に生息するワニを神格化したものです。蛇(龍)と鱈はいずれも水に由来するものですから、「神仏習合」時にインド由来の「金毘羅(クンピーラ)」信仰が取り入れられたのだと思われます。

#### ◆ 航海の目印として ◆

琴平山は楽器の琴を平らにしたような山容から名づけられたといわれます。その特異な山容から瀬戸内海を航行する航海者の恰好の目印となりました。山を航海の目印とすることを「山あて」というそうですが、その対象となる山はしばしば信仰の対象となります。特に「こんびらさん」は「水」に大変所縁のある神さまです。「板子一枚下は地獄」とは船乗りの仕事は危険と隣り合わせだということですが、常に生命の危険に晒される航海者にとって「こんびらさん」はいつも目にとまる山の神さま。神秘的な山容が航海者の心の支えとなったのでしょうか。「こんびらさん」の信仰は航海者たちの活動範囲に沿って瀬戸内海沿岸に徐々に広まっていきます。ちなみに琴平山は、象の頭、あるいは象が寝そべっているように見えることから象頭山とも呼ばれます。

#### ◆ 塩飽の船乗り ◆

岡山県と香川県に挟まれる西備讃瀬戸。この内海に、大小合わせて28の島々から成る塩飽諸島があります。

塩飽諸島は古代より海上交通の要衝として知られ、操船技術に長けた島民は源平合戦の頃より瀬戸内海一帯で活躍していました。安土桃山時代に入りますと、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康といった時の権力者の保護を受け大いに栄えることとなります。

そしてこの塩飽の繁栄に比例するように「こんびらさん」の信仰は急速に広まっていきます。実はこの急速な信仰の広まりは塩飽の船乗りたちの活躍によるものでした。彼らは自らの船に「こんびらさん」の旗を掲げ各地を廻っていたそうです。塩飽の方々はいわば「こんびらさん」信仰のスポークスマンだったのです。

#### ◆ 航路の発達 ◆

江戸時代に入りますと、出羽国(山形県)の米を大坂(阪)へ運ぶ「西廻り航路」が開かれ、経路にあたる瀬戸内海沿岸の港は大いに賑わいました。航路の開発により海運は賑わい人々の交流は盛んになります。塩飽の船乗りたちをはじめとした海事関係者は「こんびらさん」の「靈験」や「ご利益」を盛んに説いてまわったのでしょうか。「こんびらさん」の信仰は航路伝いに北陸や東北などの他の地方へと伝わり、江戸時代の中頃には全国で「一生に一度はこんびらさん」と憧れる「こんびら参り」の一大ブームが巻き起こりました。

#### ◆ おわりに ◆

「こんびらさん」の信仰は大変古いものですが、「海の神さま」としての信仰は、実は比較的新しいのではないかと私は推測します。もちろんその「海の神さま」としての信仰は、豊穡祈雨の神、水の神として近隣の人々から崇敬を集め、長い長い時の中で培われた「盤石な信仰基盤」があるからこそ、形成されたものであるといえます。

そして江戸時代以降の爆発的な広まりは「こんびらさん」を信仰した海事関係者の方々の熱心な「布教活動」によるところが大きいと思われる。人々の「草の根活動」が「こんびらさん」の信仰の支えとなったのです。鎌倉時代の言葉に「神は人の敬いによりて威を増し人は神の徳によりて運を添ふ」とありますが、「こんびらさん」は海事関係者の「海上安全」にかけた切なる願いの具現・象徴なのではないでしょうか。

#### ◆ 執筆者 ◆



金刀比羅宮 禰宜  
琴陵 泰裕氏



琴平山(象頭山)遠景



◆ 流し樽(初穂)

瀬戸内海を航行する船乗りや漁師たちが「海の神さま=こんびらさん」に航海の安全と感謝の気持ちを込めて酒樽を流す風習です。現在でも続く珍しい風習です。





# 全国 54,000 人のボランティア救助員の活動を支援しています 青い羽根募金活動レポート 2012

効率的かつ安全な海難救助活動を行うためには、日常頃から組織的な訓練を行うとともに、救命胴衣やロープなどの救難資機材の整備や救助船の燃料等も必要となります。これらに必要な資金は全国的な募金活動によって集められています。

中日海洋少年団の「青い羽根募金」活動の様子

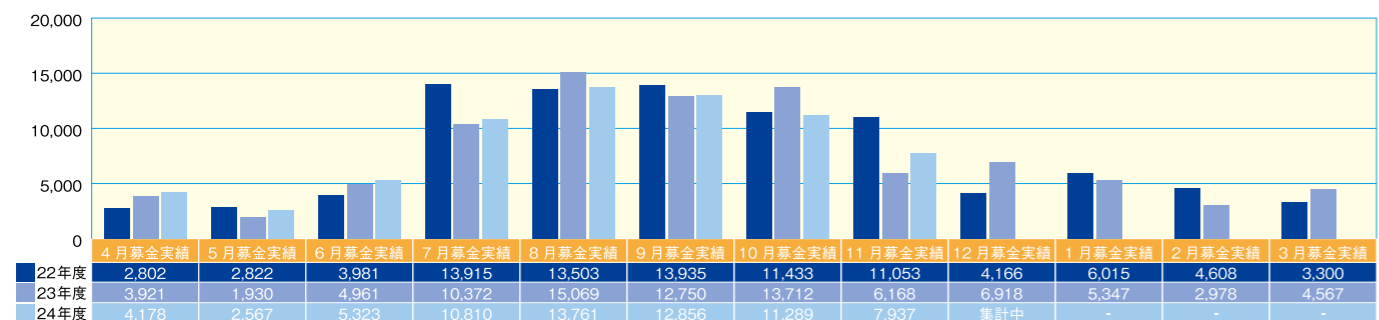
## 平成24年度「青い羽根募金」の状況

本年度も「海の日」を中心に7～8月の2ヵ月間を「青い羽根募金強調期間」と銘打ち、全国都道府県水難救済会と協力して積極的に募金活動を実施。全国の多くの皆様から青い羽根募金の趣旨にご賛同をいただき、暖かいご支援をいただいています。

海上保安庁、防衛省など関係省庁をはじめ、都道府県、企業、団体などからもご支援をいただきました。特に防衛省の陸上、海上、および航空自衛隊の隊員の皆様や、海洋少年団および学校生徒会の皆様に募金活動へのご協力をいただきました。

皆様のご支援により、11月(4月から11月末の集計)までに、68,721,015円の募金をいただきました(下図・青い羽根募金実績参照)。

### ■青い羽根募金実績 単位：千円



## 「青い羽根募金」にご協力いただき、ありがとうございました。



東京海洋大学学生寮様

平成25年1月16日、東京海洋大学海王寮において、今年度募金活動を行った寮生の皆様へ日本水難救済会向田理事長から日本水難救済会会長感謝状及び事業功労有功盾を贈呈しました。



千代田区海洋少年団様

千代田区海洋少年団では、平成25年1月12日、今年の初訓練にあわせ、団員の皆様に日本水難救済会会長感謝状が披露されました。



陸上自衛隊補給統制本部様

平成24年10月24日、陸上自衛隊補給統制本部において、同本部副本部長中野成典様へ日本水難救済会上岡常務理事から日本水難救済会会長感謝状及び事業功労有功盾を贈呈しました。



若築建設株式会社様

平成25年1月15日、若築建設(株)東京本社において、同社代表取締役専務執行役員松尾耕造様へ日本水難救済会上岡常務理事から日本水難救済会会長感謝状及び事業功労有功盾を贈呈しました。



白方漁業協同組合・今治造船株式会社様

平成24年6月20日、サンポートホール高松において、白方漁業協同組合数内兵三様及び今治造船(株)執行役員都築恵様へ香川県水難救済会琴陵会長から日本水難救済会会長感謝状及び事業功労有功盾を贈呈しました。



海上自衛隊佐世保地方総監部様

平成24年10月4日、海上自衛隊佐世保地方総監部において、同総監部防衛部長眞鍋浩司様へ長崎県水難救済会福田副会長から日本水難救済会会長感謝状及び事業功労有功盾を贈呈しました。



東洋建設株式会社様

平成25年1月22日、東洋建設(株)本社において、同社代表取締役社長毛利茂樹様へ日本水難救済会向田理事長から日本水難救済会会長感謝状を贈呈しました。



清水海洋少年団様

清水海洋少年団では、平成25年1月13日、カッターの「初乗り式」において、団員や参列者の皆様に日本水難救済会会長感謝状が披露されました。

## 青い羽根募金支援自動販売機の設置状況

日本水難救済会では、売上金の一部が青い羽根募金として寄附される「青い羽根募金支援自動販売機」の設置を全国的に推進しています。平成24年12月末現在の全国における設置台数は505台となっております。



### 富山県水難救済会

富山県水難救済会では、平成24年6月8日、魚津市漁港定坊割の「魚津漁業協同組合」の荷さばき施設に富山県としてはじめてのガイドードリンコの青い羽根募金支援自販機第1号機を設置しました。  
また、同年9月20日にも射水市八幡町の「新湊漁業協同組合」の施設内に第2号機を設置しました。



### 大阪府水難救済会

大阪府水難救済会では、平成24年9月28日、堺市堺区築港南町の「堺3区港湾労働者福祉会館前」に同水難救済会の青い羽根募金支援自販機の第1号機を設置しました。  
また、10月30日には堺市堺区大浜西町に所在し、堺出島漁港で水揚げされるタコ、カレイ、アナゴ、シャコなど獲れたての魚介類を販売している「とれとれ市」等に2号機、3号機を設置しました。



### 岡山県水難救済会

岡山県水難救済会では、岸壁からの海中転落事故に備える目的で「救命浮環内蔵型」青い羽根募金支援自販機設置を進めていますが、平成24年9月27日、倉敷市水島西千鳥町のタチバナ工業(株)中国支店敷地内に水島港としては初めての「救命浮環内蔵型」自販機を設置しました。

## 青い羽根募金活動

日本水難救済会では、海上保安庁のご協力をいただき、平成24年11月10日、東京都品川区西五反田の「ゆうぼうとホール」で開催された「海上保安庁音楽隊第19回定期演奏会」において、青い羽根募金活動を実施しました。

定期演奏会は、ほぼ満席の盛況で、来場者の皆様から沢山の募金をいただきました。



## 「青い羽根募金」を原資としたライフリングプロジェクト

日本水難救済会の各地方組織では、岸壁・防波堤における海中転落事故による死者・行方不明者が海浜事故の約6割を占めていることから、一般人の海中転落事故発生のおそれのある桟橋及び海浜公園に救命浮環を設置する「ライフリングプロジェクト(救命浮環設置事業)」を展開しております。

### 千葉県水難救済会

千葉県水難救済会は、千葉海上保安部の指導を受けるとともに千葉港湾事務所と協力し、平成24年7月5日、千葉市美浜区磯辺の「検見川の浜突堤」にライフリング2台を設置しました。  
同突堤は、市民の憩いの場として、釣り客や一般市民に開放されておりますが、平成24年1月18日に釣り人の転落死亡事故が発生しており、再発防止の観点から、転落や溺水事故が発生した際に即応できるよう設置したものです。



## 青い羽根募金による救難資器材の整備

東日本大震災の大津波により、保有していた救助資器材が流出する等甚大な被害を受けた岩手県、宮城県、福島県及び茨城県水難救済会の22救難所に携帯用拡声器、双眼鏡、トランシーバー、強力ライト、担架等の救難資器材を合計90個整備しました。  
また、昨年度受入れ体制が整わず救難資器材の整備が遅れた宮城県水難救済会の14救難所にヘルメット140個、閉上救難所に800ワットの携帯用発電機1台(投光器等付属品を含む)を整備しました。



### マスコットキャラクターデザイン募集

公益社団法人日本水難救済会では、海で遭難した方々の救助を行うボランティアを支える当会の活動について広く国民の皆様へ理解を深めていただくため、青い羽根募金をはじめ様々な広報啓発活動の機会に使用するマスコットキャラクターのデザインを平成24年11月1日より一般公募いたしました。

平成25年1月31日までに、6歳から81歳まで幅広い国民の皆様から合計800点を超える応募をいただきました。

当会では、2月から

- ①当会のイメージに合い、その活動をアピールできるもの
- ②親しみやすく、世代を問わず広く愛されるもの

を選定のポイントとし、青い羽根募金運営協議会の委員や全国の地方水難救済会の関係者等幅広い皆様のご協力をいただき、合計4回の選定を経て、応募された作品の中から最優秀賞1点及び優秀賞5点を選定、3月上旬に当会ホームページで審査結果を発表することとしております。

公益社団法人 日本水難救済会

## マスコットキャラクターデザインの募集

日本水難救済会では、海で遭難した方々の救助を行うボランティアを支える当会の活動について広く国民の皆様へ理解を深めていただくため、青い羽根募金をはじめ様々な広報啓発活動の機会に使用するマスコットキャラクターのデザインを平成24年11月1日より一般公募いたしました。

平成25年1月31日までに、6歳から81歳まで幅広い国民の皆様から合計800点を超える応募をいただきました。

当会では、2月から

- ①当会のイメージに合い、その活動をアピールできるもの
- ②親しみやすく、世代を問わず広く愛されるもの

を選定のポイントとし、青い羽根募金運営協議会の委員や全国の地方水難救済会の関係者等幅広い皆様のご協力をいただき、合計4回の選定を経て、応募された作品の中から最優秀賞1点及び優秀賞5点を選定、3月上旬に当会ホームページで審査結果を発表することとしております。



## ボランティアスピリットの継承のために 水難救済思想の普及活動レポート

(公社)日本水難救済会では、海事思想や水難救済ボランティア思想を啓蒙することにより将来の後継者になってもらえるよう、青少年を対象に、海上保安官や消防署員、ライフセーバーの方々を講師に招いて全国各地で水難救済ボランティア教室を展開しています。

(公社)日本水難救済会による、昭島市立つつじが丘南小学校での若者の水難救済ボランティア教室の様子

### 平成24年度 若者の水難救済ボランティア教室

「若者の水難救済ボランティア教室」は平成13年度から始まった事業で、小中学校や高校生等の若者に海

の知識を深めてもらうとともに、海に親しむ機会を提供し、実地体験を通じて救命技術を習得してもらうことを目的としています。

教室では、海の安全意識の向上を図るとともに、水難救済ボランティ

ア思想を啓蒙しています。今年度も国土交通省、海上保安庁、消防庁の後援を受けて全国各地で開催され、12月末までに19の地方水難救済会において80教室、10,644名が参加しています。

### ■(公社)日本水難救済会 東京海上保安部の協力のもと、若者のボランティア教室を開催

平成24年9月7日、東京都昭島市立つつじが丘南小学校にて開催しました。参加者は三年生及び五年生の児童64名と教職員4名。講師には、東京海上保安部から警備救難課職員

3名及び巡視艇まつなみ乗組員6名を招きました。

同校プールで水難事故発生時の対応や自己救命索の説明を行うとともに、水中歩行によって水流を作り漂流の模擬体験、個人及びバディによる背浮き、ペットボトルを利用した背浮きのほか、ペットボトルを使った救助などを児童に体験してもらいました。

当日は、気温が高くプールでの教室開催に適した天候。児童たちは元気いっぱい、にぎやかながら皆まじめに取り組んでいました。校長先生からは「以前、拝島小学校の時にこの教室を開催し、大変好評だった。今回もお願いして良かった。」と感想があり、見学した父兄からも「来年もこの教室を開催してもらいたい。」との意見が寄せられました。



### ■新潟県水難救済会

#### 夏休み中の水難事故防止を呼びかけ救命技術の実技を体験

平成24年7月13日、新潟市立白根第一中学校で開催しました。参加者は一年生生徒157名のほか教員5名でした。講師には、新潟海上保安部から警備救難課職員2名及び巡視船やひこ乗組員8名を招きました。

今回の教室は人数が多かったことから2グループに班を分け、実技と座学を50分ずつ実施しました。座学では、夏休み中は海浜事故が発生しやすいことから事故防止に向けて離岸流等についてスライドを使用した説明を行い、実技では、海浜事故防止策と救助法として、着衣による浮力実験や背浮き練習、ペットボトルを使用した浮力確保及び救命胴衣着用体験などを行いました。

座学、実技いずれも計画的なプロ



グラムにより効率的に進められた教室について、参加された教師等の方々から賞賛の声



### ■茨城県水難救済会

#### 着衣泳やライフジャケット着用と、ペットボトル等による溺者救助法を体験

平成24年7月19日、ひたちなか市立那珂湊第二小学校において開催しました。参加者は、ひたちなか市立那珂湊第二小学校五、六年生児童77名と教職員等6名及びひたちなか市立磯崎小学校児童69名と教職員等6名です。

開催場所となったひたちなか市立那珂湊第二小学校では毎年教室を開催しており、今回は茨城海上保安部から講師(海上保安官)13名の協力をいただきました。教室では海での遊泳に伴う危険性について説明するとともに、着衣泳、ライフジャケット着用及びペットボトル等による溺者救助方法を児童等に体験してもらい、海浜事故の未然防止及び海難防止思想の普及や水難救済の普及啓蒙



を図りました。

参加した児童からは、溺者救助方法を体験して命の大切さを知ることができた、大変有意義なものであったとの感想が寄せられました。



## ■岡山県水難救済会

### 夏休み前に8小学校で実施 各校に救命浮輪等も贈呈

岡山県水難救済会では、夏休みを前に平成24年7月5日から7月13日にかけて岡山市、玉野市、倉敷市の8つの小学校において開催。講師として岡山ライフセービングクラブ救難所のほか水島海上保安部、玉野海上保安部の延べ55名の協力をいただきま

した。参加した児童数は8校合計で児童1,003名、教職員・保護者等43名となりました。

教室では「海浜事故防止と救助法」と「岡山県内及び玉野市内での事故発生の危険性と事故防止」をテーマに、海などで万一溺れた場合に大きく手を振る「救助を求めるサイン」を体験。また、岡山ライフセービングクラブ救難所員がレスキューチューブを使用した救助デモンストレーションを

行いました。

さらに、通学時などの服装で水に入った場合に動きが困難なことを体験してもらうとともに、着衣泳、ペットボトル等身近なものを使用した背浮き、救命胴衣の着用などを体験してもらいました。どの小学校の児童も真剣に取り組んでいました。

なお、7月9日に玉野市立八浜小学校で開催した教室では岡山県水難救済会会長(黒田晋玉野市長)をお迎えして水難事故防止を呼びかけるとともに、岡山県水難救済会の名入り「救命浮環」と「救命胴衣」を教材として同校に贈呈しました。また、八浜小以外の小学校には岡山ライフセービングクラブ救難所員が同会の名入り「救命浮環」と「携帯電話防水パック」を贈呈しました。



玉野市立八浜小学校(参加者 全校児童190名)



岡山市立古都小学校  
(参加者 二、五年児童75名)



岡山市立政田小学校  
(参加者 全校児童197名)



岡山市立妹尾小学校  
(参加者 六年児童82名)



岡山市立東晴小学校  
(参加者 五、六年児童160名)



玉野市立第二日比小学校  
(参加者 四年児童24名)



岡山市立太伯小学校  
(参加者 全校児童205名)



倉敷市立乙志摩東小学校  
(参加者 五、六年児童70名)

## ■千葉県水難救済会

### 5小学校において実施 身近なものを使用した着衣泳やAED心肺蘇生法を体験

千葉県水難救済会では、これまでに県下10カ所の小学校等において「若者の水難救済ボランティア教室」を開催。今年度も夏休みを前に平成24年7月2日から7月18日にかけて、君津市、千葉市、木更津市の5つの小学校において開催しました。参加者数は5校合わせて児童970名、教職員、保護者等66名。講師には、千葉県のほか千葉海上保安部から延べ45名の協力をいただきました。

各教室では自救技術として「もし水の中に落ちてしまったら」を想定し、慌てないで深呼吸をして体の中に空

気をいっぱい入れ、泳いで助けが来るのを待つことを説明。ペットボトルやランドセル、ボールなど身近なものを利用したさまざまな浮き方や、ライフジャケットの着用法を実地体験で学びました。また、他救技術としてペットボトルに紐をつけたものを使った救助法を解説。先生方や保護者には、AEDを使用した心肺蘇生法について実地体験を行っていただきました。

教室終了後、児童より「実際に服で水に入って、

すごく動きにくくて重たいと感じました。」「服を着たままクロールや平泳ぎができるようになりました。」「ランドセルが浮いたからびっくりしました。』などの感想文が寄せられました。



君津市立外箕輪小学校(参加者 五、六年児童180名)



富津市立天神山小学校(参加者 全校児童56名)



木更津市立金田小学校(参加者 全校児童147名)



木更津市立第二小学校(参加者 全校児童300名)



千葉市立寒川小学校(参加者 全校児童300名)



### 海難救助訓練ほか

平成24年度は、現在までに全国42の地方水難救済会において延べ254の救難所、支所から3,845名(総員12,191名)の救難所員が参加して実地訓練が行われました。

山形県水難救済会 救命索発射器操法訓練の様相

#### 山形県水難救済会

#### 海難事故に備え、救難所員が救助技術の基本を体得

平成24年9月15日、加茂救難所が主体となり、由良救難所、豊浦救難所、温海救難所及び山形県消防防災航空隊の合同で鶴岡市加茂港において自主訓練を実施。来賓として鶴岡市長、鶴岡市議会議員、酒田海上保安部長及び山形県水難救済会会長をお招きしました。

この訓練は主として鶴岡市行政区域内で発生する海難事故に備え、救難所員に救助技術の基本を体得させ

るとともに、救難所員としての自覚・社会奉仕精神の涵養を目的としたもの。「しけのため加茂港に入港中の漁船が突風と高波にあおられて防波堤に接触、機関停止して救助を求めている。乗組員は転倒し意識不明、もう一人は海中転落、さらに漁船の機関室から火災が発生した」等の連絡が漁業無線から入ったことを想定。人員報告、服装点検ののち、排水ポンプ操法、救命索発射器操法及び心肺蘇生法を行う基礎訓練を展開しま

した。また、ゴムボートでの意識不明者の救助及び消火作業、山形県消防防災航空隊による海中転落者の吊り上げ救助などの総合訓練も行われました。



ヘリによる吊り上げ救助訓練



海難救助訓練開始前の様子



ゴムボートでの救助訓練

#### 富山県水難救済会

#### 4救助所が、救難所員の基本動作確認などの自主訓練を実施

##### □新湊救難所

平成24年7月1日、富山県射水市海王町海岸壁(客船バース)において新湊救難所員28名により訓練を実施。伏木海上保安部の協力を得

て、救難所員の基本的動作確認及び点検を行い、応用として火災船救助、溺者救助及び曳航などの訓練を展開しました。



訓練開始前の救難所員



溺者救助訓練

##### □氷見救難所

同年7月11日、氷見市比美町氷見海岸壁漁港・沖合において氷見救難所員30名により訓練を実施。富山県、氷見警察署、氷見市消防団及び伏木海上保安部の協力のもと、救難所員の基本的動作確認及び点検を行い、応用として孤立者救助、火災船救助、

浸水船救助の各訓練とともに、地震・津波等の自然災害を想定した救助訓練を展開しました。



救難所員の基本動作及び点検



救助者搬送の様子

##### □富山救難所

同年7月18日、富山市四方西岩瀬地先の八重津浜海水浴場において富山救難所員32名により訓練を実施しました。富山市潜水救助員、四方校下

自治振興会及び富山市消防局、伏木海上保安部の協力のもと各種海難救助事故を想定し、救難所員の基本的動作確認及び点検を行い、応用として孤立者救助、火災船救助などの訓練を展

開。心肺蘇生法や情報伝達訓練など救難所員の救助技術向上とともに、海上保安庁との連携強化も図りました。



各機関が連携して活動



火災船救助訓練の様子



市の潜水救助員も参加

##### □魚津救難所

同年7月21日、魚津市東町経田漁港において富山救難所員32名により訓練を実施。富山県漁業協同連合会、魚津漁業協同組合及び伏木海上保安部の協力のもと、孤立者

救助、船舶火災消火、海中転落者救助及び流出油防除などの訓練を行いました。



講評の様子



海中転落者救助訓練



船舶火災の消火訓練

## 秋田県水難救済会

### 実践的な合同訓練で、迅速・的確な救助活動の展開を目指す

平成24年7月14日、男鹿市北浦漁港において第46回海難救助訓練大会を開催。秋田県知事代理危機管理監及び秋田海上保安部長等多数の来賓をお招きしました。

秋田海上保安部による救命索発射器操法の展示訓練の後、県内9救難所246名の救助所員による救難技術競技4種目(救命索発射、もやい綱投てき、ゴムボート、心肺蘇生法)の競技式訓練を実施。その後秋田海上保安



救難競技開始前の様子

部、男鹿地区消防本部、秋田県漁業協同組合など関係機関との合同による船舶火災発生を想定した初期消火訓練、浸水事故発生と海中転落者を想定した人命救助訓練を行いました。

競技式訓練では、救難所員の団結を強めるとともに平成24年4月に改定された心肺蘇生法についての確認など、技術の向上に努めることができました。

極めて実践的な合同訓練により、海



心肺蘇生法の実地訓練

難事故の発生に際して迅速で安全かつ的確な救助活動を展開し、水難事故防止の普及啓発を図るという所期の目的を達成することができました。



初期消火訓練

## 宮崎県水難救済会

### 海難救助訓練や心肺蘇生等の習得を通じて救難所間の連携を強化

平成24年12月3日、宮崎県日向市細島港工業港地区において訓練を実施。日向海上保安署及び日向市消防局の協力のもと、孤立者救助をはじめ漂流者救助のほか航空機を使用した吊り上げ訓練などを展開。心肺蘇生法やAEDの取扱いについても実地訓練を通じて習得を図りました。



AEDの取扱いについても体験

救助訓練については地元船協力のもと機敏に展開。心肺蘇生やAEDの取扱いも所員同士協力しながら行われました。今回の訓練で、救助技術など救難所員の能力向上を図ることができました。



地元船協力のもと、訓練を展開



市消防局と連携し孤立者を救助

## 高知県水難救済会 宇佐救難所 関係機関との合同で大規模災害に対応した物資輸送訓練

平成24年11月10日、高知県土佐郡宇佐町宇佐漁港及び前面海域において、高知県、土佐市、土佐市消防本部及び高知海上保安部等との合同で「大規模地震及び津波等自然災害が発生し、被害を受けた土佐市周辺地域で数日たっても道路交通機能が回復せず、被災者の生活必需品確保や災害応急対策を実施するための救援物資を搬送する必要がある高知



情報伝達訓練

県の協力要請を受けた」との想定で各種訓練が行われました。情報伝達訓練のほか、巡視船からの物資を漁船で宇佐漁港へ輸送し岸壁から陸揚げしてトラックへ積み込むなど、海上や陸上における救援物資輸送の訓練、さらに消防本部による心肺蘇生法講習が行われました。



巡視船から救援物資を受け取る漁船



漁船から救援物資の陸揚げ

## 岡山県水難救済会

### 政府主催の防災総合訓練に参加、本会の知名度向上・活動周知も図る

平成24年9月2日に、政府主催の「平成24年度大規模津波防災総合訓練」が岡山県岡山市南区の岡山港にて実施されました。

「南海トラフを震源域とするM9.0の巨大地震により岡山県内で震度6強を観測、沿岸部に5mの巨大津波が来襲した」との想定で実施された訓練に岡山県水難救済会も参加し、小串漁業協同組合救難所から救助艇1隻が出動、4名の救難所員により支



小串漁業協同組合救難所による支援物資輸送訓練

援物資輸送訓練を実施しました。

羽田雄一郎国土交通大臣(当時)、添田慎二第六管区海上保安本部長が視察される中、海上保安庁をはじめとする各防災機関が避難広報やヘリコプターを使用した漂流者吊り上げ救助などの訓練を通して連携を深めることで、防災対応能力の向上を図ることができました。また今回の参加により、日本水難救済会の知名度向上、岡山県水難救済会の活動の周知についても行うことができました。



開式における羽田国土交通大臣(当時)の訓示



船で運んだ支援物資を陸揚げする

# 新設救難所の紹介

海難救助の拠点となる、新たな救難所が新設されています。  
今回は、平成24年4月以降に設置された7カ所の救難所をご紹介します。  
なお、紹介文は、それぞれの水難救済会の救難所からご提供いただきました。

## 青森県漁船海難防止・水難救済会

青森県は、日本海・津軽海峡・太平洋・陸奥湾と四方を海に囲まれ、海岸線約760kmを有しており、18カ所の救難所が海難事故発生の際の救難活動に当たっています。

今回新設された救難所が位置する陸奥湾は、山から栄養豊富な水が流れ込み多種多様な魚介類が育まれる豊かな海域であり、古くからホタテ養殖漁業が盛んに行われております。

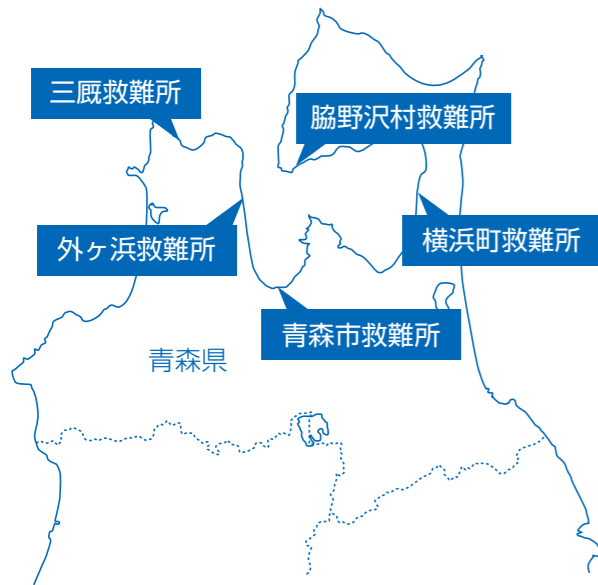
これまで陸奥湾では2カ所の救難所が救難活動に当たっておりましたが、この幅広い湾内全域を網羅することができなかったため、漁業関係者の皆様方に救難活動を依頼しておりました。

このことから、青森県漁船海難防止・水難救済会では、陸奥湾全域の海難事故発生時における救難体制の確立のため、新たに5カ所の救難所を設置することとなり、平成24年8月31日開催の「漁船海難防止青森県大

会」において開所式を行いました。

開所式では新設救難所を代表して横浜町救難所二木所長が「救難所員は、日々の訓練のもとより、救難器具の整備にも努め、『海のボランティア』精神のもと自らの危険を顧みず人命救助に尽くします。」と決意表明を行いました。

本会も関係機関と連携し、海難事故防止・安全操業の啓発、救命胴衣常時着用を強力に推進してまいります。



## 外ヶ浜救難所

平成24年6月8日設立 所長以下62名  
所在地：青森県東津軽郡外ヶ浜町字平館今津尻高153



## 三厩救難所

平成24年6月1日設立 所長以下71名  
所在地：青森県東津軽郡外ヶ浜町字三厩本町9



## 横浜町救難所

平成24年6月12日設立 所長以下30名  
所在地：青森県上北郡横浜町字下川原112-1



## 脇野沢村救難所

平成24年6月22日設立 所長以下73名  
所在地：青森県むつ市脇野沢本村無番地



## 青森市救難所

平成24年8月10日設立 所長以下151名  
所在地：青森県青森市港町2-3-15



## NPO神奈川県水難救済会 茅ヶ崎救難所

平成24年8月1日設立 所長以下78名  
所在地：神奈川県茅ヶ崎市萩園3200-202

海難事故の救助は一刻を争うことから、NPO神奈川県水難救済会では少なくとも「1市町1救難所」の設置を目指しており、これまで海上保安庁や沿岸市町との協議を重ねてまいりました。そしてこの度、県下21番目の「茅ヶ崎救難所」が誕生する運びとなりました。

茅ヶ崎救難所はライフセーバーを主体に、レスキューと漁業協同組合の3団体で構成されており、様々な活動をする組織が一丸となって活動を展開します。それぞれが持つ装備や活動の特長を生かすことで、海浜部から沖合まで幅広いエリアにおける救助体制が構築され、湘南の海の「安全」が一段と強固になりました。

11月10日には、海上保安庁と茅ヶ崎市消防本部の指導と参加、そして多くの来賓の臨席と訓練参加団



体の協力を得て、陸上及び海上での避難誘導訓練(茅ヶ崎市が策定する避難誘導マニュアルのためのデータの提供)と開所式を行いました。



## (公社)琉球水難救済会 南大東救難所

平成24年12月13日設立 所長以下32名  
所在地：沖縄県島尻郡南大東村字池之沢339-5

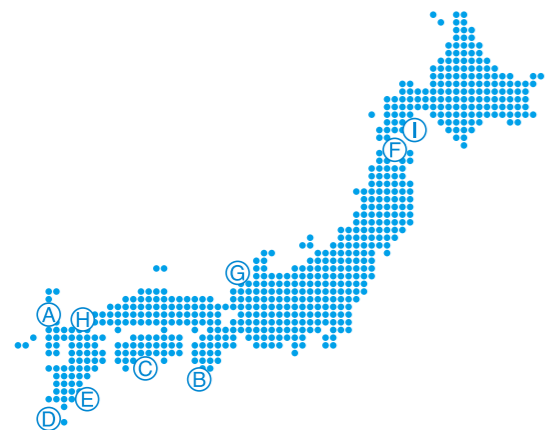
(公社)琉球水難救済会は師走に入った本年12月13日、沖縄本島東方約400kmの海上に浮かぶ南大東島に新たな救難所を設置しました。

新設された南大東救難所は総勢32名、救助船25隻の所帯であり、救難

所員全員が張り切って海難事故ゼロを目指しています。(南大東救難所については、本誌6ページの「海の安全・安心を支えるボランティアたちの群像」にて詳細をご紹介します。)

# 水難救助活動報告

平成24年下半期に発生した、主な水難救助活動の事例をご報告します。



## A 対馬沖で機関室から出火したイカ釣り漁船をえい航、2名救助

**NPO長崎県水難救済会 豊玉町救難所**

平成24年6月14日午前4時10分頃、長崎県対馬市豊玉町北西約2海里にてイカ釣り漁船A丸が漁を終え帰港中、主機過給機付近から出火した。僚船に救助を求めるとともに初期消火を行ったが失敗、延焼を防ぐべく機関室出入口を閉鎖して救命浮環及び救命胴衣を持ち、比較的煙の及ばない船首に退避して救助を待った。間もなくして到着した救助船第十八幸恵丸にえい航されて対馬市千尋藻漁港に向かったものの、途中、煙が船首方に回ってきたため、別の救助船第八吉栄丸に2名が移乗し、該船及び乗組員2名はそれぞれの救助船により千尋藻漁港に入港した。



## B 遊漁中波浪を受け浸水した乗員2名のミニボートを救助

**和歌山県水難救済会 紀南西部救難所すさみ支所**

平成24年7月22日午前7時50分頃、西牟婁郡すさみ町見津老漁港沖合の黒島付近にて遊漁中の2名乗組みのミニボートが波浪を受け浸水、その後転覆し、乗船者2名(救命胴衣着用)はそのまま海に投げ出された。しかし直後、ボートにつかまることができ漂流状態となった。

この状況を付近磯場で釣をしていた発見者が目撃、直ちに同人を磯場に運んだ瀬渡船弁天丸船長(すさみ支所救助員)に救助要請。転覆から約10分後、弁天丸が現場に到着、漂流中の乗船者2名は救助され、ミニボートはえい航の上、見津老漁港に入港した。



事故現場周辺の様子



転覆したミニボート



## C 防波堤から危険な海域に転落した釣り人1名を救助

**徳島県水難救済会 海部救難所鞆浦支所**

平成24年8月10日午後4時30分頃、友人と2人で海部郡海陽町鞆浦所在の鞆奥港防波堤を訪れていた被救助者は、釣りを開始するため準備していた午後4時35分頃、足を踏み外して海中に転落した。

何とか自力で海面に浮くことはできたが防波堤の高さに這い上がることができなかつたため、友人は現場から約400m離れた鞆浦漁業協同組合に急行し、救助を求めた。

連絡を受けた鞆浦漁協職員の救助員2名は、救命胴衣とロープを持って車で現場に急行。テトラポットにつかまって救助を待っていた被救助者に対し、ロープで繋いだ救命胴衣を投げ渡し、これを着用させ浮力を確保することができた。しかし防波堤の高さまで引き上げることは不可能だと判断。同海域は港の出入り口で潮が安定せず渦巻状に流れることからこの状態を長時間継続することは危険であると考え、鞆浦漁協組合員に連絡し、漁船を出して海から救助するように依頼した。この連絡を受けた救助員は、数名で漁船に乗組み現場に急行、午後4時45分、現場で救命胴衣を着用しテトラポットにつかまって救助を待つ被救助者を漁船に揚収、鞆浦漁協前岸壁に搬送し、救急車に引き続いた。



## D 燃料切れ漂流中の釣り船を救助し、乗組員4名の安全を確保

**鹿児島県水難救済会 長島町救難所**

平成24年8月14日午前10時7分頃、天草海上保安署から「長島町葛輪の黒島沖で釣りに来ていた船が機関故障により航行不能、近くのブイにつかまっている」との連絡があり、救難所は直ちに現場近くにいた救助船信生丸に救助要請を行った。

同10時20分頃、信生丸が葛輪漁港に単独で帰港したため同船船長から事情を聞いたところ、「現場で該船と会合、えい航を開始したところ、数分でエンジンがかかり要救助船の船長もえい航の必要はないとのことであったため、帰港した。」とのことであった。しかし同10時30分頃、天草海上保安署から「先程の船が再び機関停止し漂流中、救助願う」との連絡あり、再度、救助船宝水丸を出港させ、現場にて該船と会合。乗組員等4名及び船体の救助を無事完了した。

なお、機関停止の原因は「燃料切れ」であった。

## E 3名乗り組みの機関故障水上バイクを連携してえい航救助

**宮崎県水難救済会 日向市漁協救難所**

平成24年7月29日午後2時40分頃、日向海上保安署から「美々津港沖で3人乗りの水上バイクB号が機関故障により漂流している。」との連絡があり、日向市漁協救難所は直ちに所属船みなと丸に救助要請、同船は現場に向かった。

一方、同2時50分頃、現場付近で操業中の第5恵比須丸がB号の異変に気づき救助作業を開始、乗組員等3名を無事揚収救助するとともにみなと丸と協力してB号のえい航救助を実施、午後3時15分、美々津港に入港した。



## F 機関故障した乗員 3名のゴムボートを スピード救助

青森県海難防止・水難救済会 大瀬戸救難所

平成24年5月26日午後2時40分頃、青森海上保安部より「北金ヶ沢沖合約1,000mの海上で3名乗りのゴムボートが機関故障のため漂流。救助願う。」と連絡あり。大瀬戸救難所は直ちに大瀬戸漁協所属船伊藤光栄丸・山崎光翔丸・古川勝真丸の3隻の救助船を出港させた。出動した3隻は午後3時10分頃、漂流中のゴムボートを発見、同3時16分、3名及びゴムボートを船内に揚収し、同3時28分無事帰港した。

## G 岩場にて孤立した 3名を、救助船で 無事救助

福井県水難救済会 南越前町救難所

平成24年10月21日午後1時50分頃、敦賀海上保安部から救難所員の第七朝日丸船長に対し、「河野村役場付近海域の岩場で3名が孤立している。海保も救助に向かうが、そちらも船を出し救助に当たって欲しい。」との連絡があった。直ちに救助員2名及び協力者4名が救助船「第七朝日丸」に乗船して出港し、午後2時20分頃、現場にて孤立している3名を発見。救助船に移乗させ無事救助を完了、同2時30分河野漁港に入港した。

## H 浸水した3名乗船の プレジャーボートの 排水を行いえい航

(社) 福岡県水難救済会 姫島救難所

平成24年9月8日午前3時48分頃、福岡県糸島市志摩姫島西沖合にて浸水した3名乗りのプレジャーボートC丸(2t)の救助要請が唐津海上保安部から入った。姫島救難所では直ちに所長以下20名が救助船姫島丸及び豊福丸により出動、同4時5分頃、浸水しているC丸を発見、横付けし、排水作業を実施。のち、加布里港へ向けてえい航を開始した。途中、糸島漁協加布里支所所属の信栄丸に引き渡し、救助を完了した。

## I ホタテ漁の途中に 転覆した船の船長と 乗組員を救助

(公社) 北海道海難防止・水難救済センター 砂原救難所

平成24年7月6日午前1時頃、養殖ほたて業を営む漁船D丸は砂原港を出港。養殖ほたて施設内にて稚貝がご引き揚げ作業中にクレーン操作を誤り、午前3時頃、転覆した。午前5時頃、該船家族から帰港が遅い旨の連絡を受けた漁協所属僚船(救助船)は、直ちに現場に向かい、午前5時30分頃、転覆船につかまっている船長及び乗組員2名の計3名を発見。船内に揚収救助し、同5時50分頃、沼尻港に帰港し救助完了した。



転覆した漁船

## J 航行不能となった プレジャーボートを えい航救助

(公社) 琉球水難救済会 与那城救難所

平成24年10月20日午後4時頃、沖縄県うるま市勝連町沖合の浮原島付近海上で釣りをしていた4名乗組みのプレジャーボート(2t)が機関故障により航行不能となり、伊計島与那城町漁協に救助要請を行った。

救助要請を受けた救助船第三漁栄丸は直ちに桃原港を出港した。午後5時頃、現場に到着し故障船と会合、船体を平安座南港までえい航して入港、船長及び乗組員4名の救助を完了した。

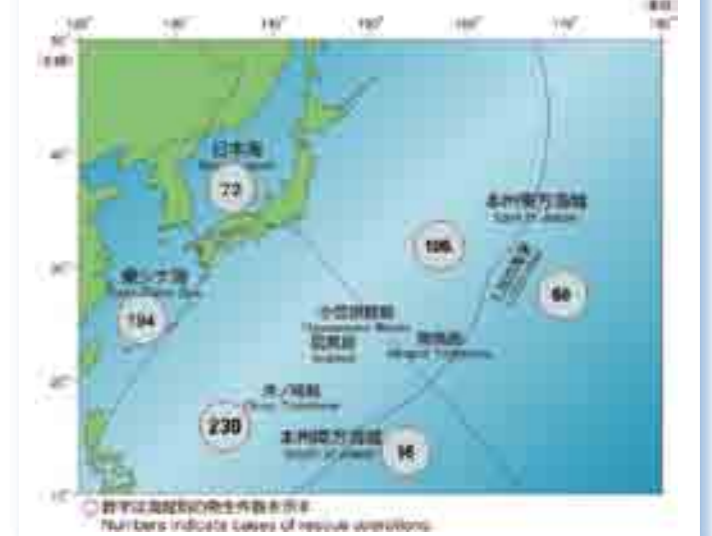


## 洋上救急活動報告

事業開始以来、平成24年12月31日までに765件もの洋上救急事案に対応しています。

洋上救急事業は、全国健康保険協会や諸団体からの資金援助と医療機関、医師・看護師、海上保安庁や自衛隊の全面的な支援を受けつつ、昭和60年10月の事業開始以来、平成24年12月31日までに765件の事案に対応してきました。これまでに傷病者795名に対し、医師966名、看護師486名が出動し、診療や治療を行っています。

洋上救急発生海域図



平成24年9月20日 11:01発生

### 海上自衛隊ヘリコプターと海上保安庁 航空機が連携し、負傷者を迅速搬送

坂出港からオーストラリアに向けて航行中のばら積貨物船運航者より「甲板長が8m下の船倉に転落、負傷。早急に医療機関への搬送が必要」との洋上救急要請があった。硫黄島近海での洋上救急対応のため、海上自衛隊に災害派遣要請実施。13時30分、海上自衛隊ヘリUH60Jが該船に向けて硫黄島出発。一方14時25分、医師同乗の海上保安庁ジェット機LAJ500が硫黄島に向けて羽田を出発した。15時5分、ヘリUH60Jが患者の機内収容完了。16時35分、LAJ500が硫黄島に到着、海上自衛隊機から患者の引き継ぎを受けた。17時00分、LAJ500は羽田に向けて硫黄島を出発、19時00分、羽田に到着。患者等は消防救急車に引き継がれ病院に搬送された。

【発生位置】硫黄島の南南西約188海里 北緯22度02分 東経139度38分  
【傷病者】男性・32歳 甲板長(ベトナム社会主義共和国国籍)  
【傷病名】左手首及び腰椎骨折  
【出動医療機関】日本医科大学付属病院 医師:3名  
【出動勢力】海上保安庁 巡視船「いず」 羽田航空基地ジェット機LAJ500、特殊救急隊員2名 海上自衛隊救急ヘリコプター UH60J



羽田航空基地で患者等を救急車へ引き継ぐ

平成24年9月26日 17:00発生

### 呼吸困難となった船長を海上保安庁 ヘリコプターで収容し、医療機関へ

広島から横浜に向けて伊良湖岬沖を航行中の該船から「船長が呼吸困難に陥っている」との救助要請があった。そこで関西空港海上保安航空基地航空機及び中部空港海上保安航空基地ヘリコプターを発動するとともに、名古屋掖済会病院に医師出動を要請。18時10分、医師等が病院を出発。18時30分、救助支援のため関西空港海上保安航空基地飛行機MA953が該船に向けて出発。19時20分、中部空港海上保安航空基地から医師等同乗のヘリMH684が該船に向けて出発。19時55分、MH684が該船と会合、患者を収容した。21時00分、MH684が中部空港に到着、消防救急車に患者等を引き継いだ。21時20分、患者は常滑市民病院に収容された。

【発生位置】愛知県伊良湖岬の南東約46海里 北緯33度54.8分 東経137度32.1分  
【傷病者】男性・38歳 船長(フィリピン共和国国籍)  
【傷病名】一過性虚血発作等の疑い  
【出動医療機関】名古屋掖済会病院 医師:1名 看護師:1名  
【出動勢力】海上保安庁 関西空港海上保安航空基地飛行機MA953、中部空港海上保安航空基地ヘリコプター MH684 名古屋海上保安部 巡視艇「しらい」潜水士2名



航空基地で患者等を救急車へ引き継ぐ

平成24年11月13日 09:47発生

## 緊急手術を要する患者を海上保安庁ヘリコプターが搬送し救助

運航者より、「乗組員が胃の痛みを訴え吐血、横浜掖済会病院にて医療指示を求めた結果、早急に医師による往診が必要との助言により、洋上救急要請を要請する」との通報を受けた。そこで石垣航空基地への出動指示及び沖縄県立八重山病院に出動要請実施。10時40分、ヘリMH969に医師が同乗し該船に向けて石垣空港出発。11時43分、宮古島の北北西約50海里にてMH969が該船と会合、患者を収容した。12時30分、石垣航空基地にてMH969から患者等が救急車に引き継がれ、病院に搬送された。患者は病院にて十二指腸潰瘍穿孔による腹膜炎と診断され、緊急手術を受けた。

【発生位置】沖縄県宮古島の北北西約58海里 北緯25度40分 東経124度36分  
 【傷病者】男性・51歳 甲板長(フィリピン共和国国籍)  
 【傷病名】十二指腸潰瘍・腹膜炎  
 【出動医療機関】沖縄県立八重山病院 医師：1名  
 【出動勢力】海上保安庁 石垣航空基地ヘリコプター MH969



ヘリへ患者を収容



ヘリから救急車に引き継がれる患者

平成24年12月4日 13:20発生

## 一時心肺停止状態となった患者を海上自衛隊救難ヘリコプターで搬送

奄美大島の北西約120海里付近を航行中の延縄漁船より「乗組員が倒れ、一時心肺停止となったが心臓マッサージにより意識は回復した。しかし至急の救助を願う」との通報があった。そこで巡視船を発動するとともに、海上自衛隊への災害派遣要請及び今給黎総合病院に医師等の出動要請を実施。14時26分、海上自衛隊ヘリUH60Jが鹿屋航空基地を出発。14時40分、ヘリUH60Jは谷山ヘリポート到着、医師と看護師を同乗させ、14時50分、該船に向けて出発。16時05分、ヘリUH60Jは該船を確認、17時02分に患者の収容を完了した。18時17分、UH60Jは谷山ヘリポートに到着、患者等を救急車に引き継いだ。18時45分、救急車は病院に到着した。

【発生位置】鹿児島県奄美大島の北西約120海里 北緯29度52分 東経127度52分  
 【傷病者】男性・57歳 乗組員  
 【傷病名】くも膜下出血  
 【出動医療機関】今給黎総合病院 医師：1名 看護師：1名  
 【出動勢力】海上保安庁 巡視船「さつま」 海上自衛隊 救難ヘリコプター UH60J



谷山ヘリポートに到着した海上自衛隊機から救急車への引き継ぎ



救急車に収容される患者

### お知らせ

現在、洋上救急事業を紹介する広報用DVDを制作しております。  
 4月には関係先に配布いたしますので、ご活用をお願いいたします。

### ■その他の洋上救急の状況 (平成24年12月31日現在)

発生日時	発生位置	傷病者	状況
平成24年7月20日(11:15)	千葉県野島崎灯台の南東約210海里 北緯34度03分 東経143度16分	男性・60歳 船長 (傷病名) 脳幹出血	該船船主より「船長が手足のしびれを訴えている」との通報があり、横浜掖済会病院に医療指示を受けるよう指示を行った。12時20分、巡視船「やしま」発動。13時11分、該船船舶所有者から洋上救急による救助要請を受け、亀田総合病院に医師等の出動を要請。14時15分、海上自衛隊第一航空群に災害派遣要請。14時38分、海上自衛隊UH60Jが館山基地を出発、14時52分、亀田総合病院ヘリポートに到着。14時54分、医師同乗、館山基地経由で16時13分に該船に向けて出発。18時04分、UH60Jが該船と会合し、18時35分、患者の収容を完了。19時35分、亀田総合病院ヘリポートに到着、患者の病院引き渡しを完了した。
平成24年8月13日(07:30)	潮岬の南南東約100海里 北緯31度50分 東経136度46.9分	男性・65歳 ケーブル敷設技術員 アメリカ合衆国国籍 (傷病名) 両眼遠視性乱視	ハワイから横浜に向けて航行中の該船に乗船していた技術員が右眼の不調を申告、同乗看護師が会社経由で医師に助言を求めた結果「12時間以内の診察が必要」との助言を受けた。13日9時25分、代理店経由で洋上救急要請がなされた。気象状況等を考慮し直ちに海上自衛隊に災害派遣要請実施するとともに、東海大学医学部付属病院に医師等の出動を要請。11時30分、医師等が海上自衛隊厚木基地に向けて病院を出発。12時17分、医師等が同乗した海上自衛隊飛行艇US-2が該船に向けて出発。14時16分、該船から患者を収容した飛行艇US-2が厚木基地に向けて現場を離脱。15時15分、厚木基地にて病院救急車に患者等の引き継ぎを行った。
平成24年8月17日(23:25)	沖縄県喜屋武岬の南南西約60海里 北緯25度01分 東経127度04分	男性・34歳 二等航海士 フィリピン国籍 (傷病名) 急性虫垂炎	沖縄県喜屋武岬沖をフィリピンに向けて航行中の該船代理店から第十一管区海上保安本部に、乗組員1名が腹痛を訴えており、急性虫垂炎の恐れがある旨の通報があった。18日0時25分、再度代理店より、患者の容態が悪化し洋上救急を要請するとの通報を受けた。沖縄赤十字病院に出動を要請、及び那覇航空基地航空機を発動。18日3時00分、医師同乗のMH960が該船に向けて那覇航空基地を出発。3時19分、喜屋武岬南南西約30海里付近にてMH960と会合、MA722の照明弾支援を受け3時36分、患者の機内収容完了。4時00分、那覇航空基地に到着、4時14分、救急車に患者を引継いだ。
平成24年9月15日(04:30)	鹿児島県屋久島の北方約9海里 北緯30度24.7分 東経130度18.6分	男性・20歳 乗客(学生) (傷病名) 髄膜炎	名瀬港から鹿児島港に向けて航行中の該船より第十管区運用司令センターに「乗客1名の意識が無く、医師の助言によれば不整脈の疑いがあり、救助願う」旨の救助要請があった。5時30分、巡視船「あかいし」が発動。6時15分、機動救難士が同乗したMH968が鹿児島航空基地を出発。6時15分、巡視船「あかいし」が該船と会合し、伴走警戒を実施した。6時35分、MH968が谷山ヘリポートにて医師と看護師を同乗させ該船に向けて出発。6時48分、MH968が該船と会合、6時52分に吊り上げ救助を開始し、7時07分に機内収容を完了。7時21分、MH968が谷山ヘリポートに到着。7時25分、患者等を救急車に引き継ぎ完了した。
平成24年11月3日(00:32)	魚釣島の北北東約15海里 北緯25度59分 東経123度35分	男性・37歳 主任通信士 (傷病名) 失神発作	該船から第十一管区海上保安本部運用司令センターに「乗員1名が船橋立直中に倒れて一時意識を失った。5分後に意識回復したが呼吸が浅く、両手足に痺れを訴えている」との通報があった。1時22分、第十一管区海上保安本部運用司令センターを介して沖縄県立八重山病院に医療指示を仰いだ結果、医師同乗の搬送が必要との判断により、洋上救急を要請。巡視船「はやと」ヘリ甲板を使用しての患者搬送対応のため、3時10分、該船から巡視船「はやと」に患者等移乗。3時10分、石垣航空基地から医師1名がMH969に同乗、巡視船「はやと」に向けて出発した。3時58分、巡視船「はやと」に着船。4時18分、患者及び付添人をMH969に収容、石垣航空基地に向けて離船した。5時05分、MH969は石垣航空基地に到着、患者等を石垣市消防本部救急車に引き継いだ。
平成24年11月24日(10:50)	沖縄本島の西約160海里 北緯27度28.30分 東経124度56.42分	男性・50歳 機関長 ギリシャ共和国国籍 (傷病名) 心筋梗塞(疑い)	沖縄本島の西方海域を南下中の該船から「乗員が背中、手及び胸の痛みを訴えており、緊急搬送願う」旨、海上保安庁経由で第十一管区に入電があった。11時48分、第十一管区が該船に病状確認したところ、心筋梗塞の疑いがあり、早急な医師の往診が必要との医療指示を受けているとの返答、13時30分、該船船舶代理店から洋上救急要請を受けた。16時29分、航空自衛隊に災害派遣要請及び琉球大学医学部付属病院に出動要請実施。17時02分、医師同乗の空自UH60Jが那覇基地を出発。17時39分、UH60Jが沖縄本島の西約75海里付近で該船と会合、17時51分、患者を収容。18時32分、UH60Jが空自那覇基地に到着。18時40分、救急車に患者等は引き継がれ、牧港中央病院に搬送された。

### ■洋上救急の発生状況(昭和60年度～平成24年度) (平成24年12月31日現在)

年度	昭和60年	平成																								計	
	~63年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24		
発生件数	98	42	36	35	42	30	29	27	16	31	30	32	23	18	24	23	37	31	16	26	21	23	33	24	18	765	
傷病者	101	47	36	36	45	35	29	28	16	31	30	32	23	18	24	28	41	31	16	27	21	23	35	24	18	795	
医師等	193	71	63	65	77	60	54	53	33	53	52	60	50	36	46	50	68	54	31	51	37	42	69	53	31	1452	
(看護師の再掲)	71	24	22	26	28	21	19	22	10	17	16	23	17	13	14	15	12	17	12	17	9	15	22	13	9	486	
海上保安庁	巡視船	98	34	30	24	25	16	13	24	11	23	11	23	16	13	11	14	28	19	16	19	11	15	22	22	11	549
航空機	120	55	52	47	65	34	29	35	18	35	30	21	24	16	34	30	60	43	25	31	32	38	29	36	16	955	
特救隊等	29	18	20	14	20	22	18	17	15	12	20	12	10	11	10	18	25	25	17	26	32	39	26	38	20	514	
自衛隊機	23	12	2	5	**	4	7	6	4	7	10	19	16	10	13	13	10	12	3	20	7	4	32	15	11	265	
民間船	1	**	**	**	1	**	1	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	1	**	**	4	
漁船(隻)	56	24	17	21	26	12	16	17	10	21	17	22	13	13	16	12	23	17	11	14	7	11	17	14	5	432	
汽船(隻)	42	18	19	14	16	18	13	10	6	10	13	10	10	5	8	11	14	14	5	12	14	12	16	10	13	333	
外国船(隻)	33	12	15	12	16	15	10	8	6	9	10	9	14	4	8	9	15	13	5	9	13	13	14	7	10	289	

# 洋上救急慣熟訓練

洋上救急では、医師や看護師は慣れない巡視船やヘリコプターに乗り組んで遥か洋上まで出動し、厳しい自然条件や巡視船・ヘリコプターの動揺、騒音など悪条件のもとで救命治療を行うことになります。

このため、洋上救急事業では全国各地で慣熟訓練を実施。多数の医師・看護師が訓練に参加し、ヘリコプターに搭乗して治療を行うなど現場の状況を体験し、出動に備えています。平成24年度の慣熟訓練は12月末までに釧路地区（道東地方支部）、愛知地区（東海地方支部）、八戸地区（東北地方支部）の3地区で開催され、医療機関10機関、医師16名、看護師12名が参加しました。

## 愛知地区（東海地方支部）



機内での治療体験



機体状況確認



吊り上げ救助状況確認



船内施設見学

## 釧路地区（道東地方支部）



船内施設見学



吊り上げ展示訓練見学



機体状況確認

## 八戸地区（東北地方支部）



機内での治療体験



訓練検討会



巡視船医務室での装備品確認

# MRJ 互助会通信

## 平成24年度 第1回互助会理事会開催

平成24年10月18日、海事センタービル7階会議室において、日本水難救済会救難所員等互助会第1回理事会が開催されました。開催にあたり議長である互助会会長の挨拶のあと、次の議案が審議され、それぞれ異議なく承認されました。

- 1号議案 平成23年度事業報告及び収支決算(案)
  - 2号議案 平成24年度事業計画及び収支予算(案)
- また、議案審議ののち互助会規約第18条の災害見舞金給付事業に関して、東日本大震災による災害見舞金給付事業について、該当人数、請求状況、支給状況及び現状等の調査状況について報告がなされました。

### [1号議案] 平成23年度事業報告(平成23年10月1日から平成24年9月30日まで)

互助会は、日本水難救済会の正会員となっている地方水難救済会に所属する救難所員等(役職員を含む)で、入会を希望する者(会員)で構成され、会員及びその家族(会員等)の相互救済と福利増進を図る観点から各種事業を行うことにより、会員等の生活の安定と福祉に寄与するとともに、日本水難救済会の効率的な事業運営に資することを目的として事業を実施しました。

- 1 加入者について  
平成23年度の加入者数は、20,525名(昨年度22,000人)でした。
- 2 災害給付及び見舞金給付事業
  - (1)災害給付事業  
会員が水難救助業務中に災害を受けた場合に、本人又はその遺族に対して互助会規約の定めるところにより所定の給付を行い、また、会員が前記の災害により死亡した場合に、2万円を限度として花輪又は生花を遺族に贈るための事業ですが、23年度において該当する事例はありませんでした。
  - (2)休業見舞金給付事業  
会員が水難救助業務中に負傷し又は疾病にかかり、従前得ていた業務上の収入を得ることができない場合に、規約の定めるところにより、所定の見舞金を給付するための事業ですが、23年度において該当する事例はありませんでした。
  - (3)私物等損害見舞金給付事業  
会員が水難救助業務中に、当該業務の遂行中に携帯していた私物を破損、焼失、紛失等した場合、規約の定めるところにより、所定の見舞金を給付するための事業ですが、23年度において該

- 当する事例はありませんでした。
- (4)遺児等育英奨学金事業  
災害給付を受けた会員の遺児(重度の後遺症を負った会員の子で、遺児と同等と認められる者を含む)に対し、規約の定めるところにより、所定の奨学金を給付又は、貸与するための事業ですが、23年度において該当する事例はありませんでした。
  - (5)災害見舞金給付事業  
会員が自然災害又は火災等により、住居及び家財又はそれらのいずれかに被害を被った場合、規約の定めるところにより、所定の見舞金を給付するための事業です。  
平成23年度においては、東日本大震災による被害を受けた会員のうち、10救難所の447人の会員の方々に合計1,819万円を給付しました。これまでの累計は、14救難所の488人の会員の方々に合計2,065万円を給付しております。
  - (6)互助会誌発行事業  
互助会の事業成果、決算報告の会員への周知のため、互助会誌を発行する事業ですが、23年度においては、「マリンスキュージャーナル」に互助会コーナーを設け、2012年1月号に23年度第1回理事会開催概要、平成22年度事業報告及び収支計算書、平成23年度事業計画及び収支予算書を掲載し、また、2012年8月号においては、入会案内、事業内容及び災害見舞金給付状況等について、会員に周知いたしました。

## 平成23年度互助会収支計算書

(平成23年10月1日から平成24年9月30日)

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	増 減
I 事業活動収支の部			
1 事業活動収入			
①会費収入			
互助会会費収入	21,000,000	20,560,530	439,470
②雑収入			
受取利息収入	8,000	3,471	4,529
雑収入	0	1,608,894	△ 1,608,894
事業活動収入計	21,008,000	22,172,895	△ 1,164,895
2 事業活動支出			
①事業費支出	30,480,000	21,688,800	8,791,200
保険料支出	2,480,000	2,480,000	0
互助会給付金支出	26,000,000	18,190,000	7,810,000
奨学金貸与支出	1,000,000	0	1,000,000
会誌発行支出	1,000,000	1,018,000	△ 18,800
②管理費支出	2,851,000	2,831,659	19,341
人件費支出	874,000	932,619	△ 58,619
旅費交通費支出	220,000	0	220,000
会議費支出	29,000	1,050	27,950
印刷費支出	300,000	277,430	22,570
通信費支出	440,000	315,651	124,349
事務費支出	150,000	116,761	33,239
賃借料支出	664,000	663,613	387
光熱費支出	23,000	16,285	6,715
電算機事務費支出	0	43,050	△ 43,050
諸謝金支出	20,000	20,000	0
雑 支 出	131,000	445,200	△ 314,200
事業活動支出計	33,331,000	24,520,459	8,810,541
事業活動収支差額	△ 12,323,000	△ 2,347,564	△ 9,975,436
II 予備費支出	1,000,000	0	1,000,000
当期収支差額	△ 13,323,000	△ 2,347,564	△ 10,975,436
前期繰越収支差額	14,191,532	14,191,532	0
次期繰越収支差額	868,532	11,843,968	△ 10,975,436

[2号議案]

## 平成24年度事業計画

(平成24年10月1日から平成25年9月30日まで)

互助会は、日本水難救済会の正会員となっている地方水難救済会に所属する救難所員等(役職員を含む。)で、入会を希望する者(会員)で構成され、会員及びその家族(会員等)の相互救済と福利増進を図る観点から各種事業を行うことにより、会員等の生活の安定と福祉に寄与するとともに、日本水難救済会の効率的な事業運営に資することを目的として事業を実施します。

### 1 会員の募集について

平成24年度の会員数は、平成24年10月17日現在で18,615人です。平成23年7月27日の互助会臨時理事会において承認をいただいた特例措置に基づき、平成23年度から当分の間、会費を年間1,000円に決定したこと、東日本大震災により被害を受けた救難所の影響で未だ立ち入り等の制限を受けて復旧できていない救難所もあること、事務処理が遅れていること等により、平成23年度より、1,910人が減少しました。

なお、今後とも、互助会の設立趣旨を念頭に引き続き会員の募集に努めます。

### 2 災害給付及び見舞金給付事業

#### (1)災害給付事業

会員が水難救助業務中に災害を受けた場合に、本人又はその遺族に対して互助会規約の定めるところにより所定の給付を行います。また、会員が前記の災害により死亡した場合に、2万円を限度として花輪又は生花を遺族に贈ります。

#### (2)休業見舞金給付事業

会員が水難救助業務中に負傷し又は疾病にかかり、従前得ていた業務上の収入を得ることができない場合に、規約

の定めるところにより、所定の見舞金を給付します。

#### (3)私物等損害見舞金給付事業

会員が水難救助業務中に、当該業務の遂行中に携帯していた私物を破損、焼失、紛失等した場合、規約の定めるところにより、所定の見舞金を給付します。また、会員が水難救助業務中に、当該業務の遂行中に使用していた船舶の船体・属具を破損した場合、規約の定めるところにより、所定の見舞金を給付します。

#### (4)遺児等育英奨学金事業

災害給付を受けた会員の遺児(重度の後遺症を負った会員の子で、遺児と同等と認められる者を含む。)に対し、規約の定めるところにより、所定の奨学金を給付又は、貸与します。

#### (5)災害見舞金給付事業

会員が自然災害又は火災等により、住居及び家財又はそれらのいずれかに被害を被った場合、平成23年7月27日の臨時理事会において承認をいただいた特例措置に基づき、平成23年度から当分の間、改正規約の定めるところにより、所定の見舞金を給付します。

本年度は、東日本大震災で被災された会員の方々に対する災害見舞金給付事業を主体として、昨年度に引き続き、優先して、出来る限り早く、予算の範囲内で災害見舞金を給付します。

#### (6)互助会誌発行事業

年2回発行のマリンレスキュージャーナルに互助会コーナーを設けて、互助会の事業成果、決算報告等の会員への周知を実施します。

## 平成24年度互助会収支予算書

(平成24年10月1日から平成25年9月30日)

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I 事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
①会費収入				
互助会会費収入	21,000,000	21,000,000	0	21,000人
②雑収入				
受取利息収入	8,000	8,000	0	
雑 収 入	1,800,000	0	1,800,000	リーマン弁済金 2回分
事業活動収入計	22,808,000	21,008,000	1,800,000	
2 事業活動支出				
①事業費支出				
保険料支出	2,170,000	2,480,000	△310,000	
互助会給付金支出	26,250,000	26,000,000	250,000	
災害見舞金給付事業	25,250,000	25,000,000	250,000	
その他の事業	1,000,000	1,000,000	0	
奨学金貸与支出	1,000,000	1,000,000	0	
会誌発行費支出	1,100,000	1,000,000	100,000	
②管理費支出				
人件費支出	930,000	874,000	56,000	
旅費交通費支出	220,000	220,000	0	
会議費支出	29,000	29,000	0	
印刷費支出	280,000	300,000	△20,000	
通信費支出	320,000	440,000	△120,000	
事務費支出	124,968	150,000	△25,032	
賃借料支出	664,000	664,000	0	
光熱費支出	23,000	23,000	0	
電算機事務費支出	50,000	0	50,000	
諸謝金支出	45,000	20,000	25,000	
雑 支 出	446,000	131,000	315,000	
事業活動支出計	33,651,968	33,331,000	320,968	
事業活動収支差額	△10,843,968	△12,323,000	1,479,032	
II 予備費支出				
当期収支差額	1,000,000	1,000,000	0	
前期繰越収支差額	△11,843,968	△13,323,000	1,479,032	
前期繰越収支差額	11,843,968	14,191,532	△2,347,564	
次期繰越収支差額	0	868,532	△868,532	

[報告事項]

## 互助会規約第18条災害見舞金給付事業の現状について

東日本大震災により被災したとの報告があった、当該県水難救済会にアンケート調査した結果、「救難所の建物が流出して未だ事務処理等ができないところがある。」「救難所員でまだ連絡等が取れない方がいる。」等地域ごとに諸事情があつて、請求等ができない救難所が多数あることが確認できました。

また、平成23年の7月に行った「災害見舞金給付事業に該当する人数等

調査」では1,447人の方が被災したとの回答がありましたが、調査書の提出時点では、調査できなかった救難所も多数あったとのことであり、災害見舞金給付事業に該当する人数もさらに増加することが見込まれます。

以上から、東日本大震災に係る災害見舞金給付事業を完了させるには、少なくとも後2年はかかるものと見込まれます。

## 東日本大震災に係る災害見舞金給付金の支給状況について

平成24年9月30日現在

救 難 所 名	請求年月日	処理年月日	支給人数	災害見舞金額
岩手県水難救済会高田救難所	23.7.8	23.8.9	32人	142万円
岩手県水難救済会久慈地区救難所	23.5.24	23.8.22	3人	14万円
茨城県水難救済会平潟支部救難所	23.6.27	23.9.5	11人	44万円
茨城県水難救済会川尻支部救難所	23.6.30	23.9.9	12人	46万円
22年度計			58人	246万円
茨城県水難救済会大洗支部救難所	23.7.13	23.11.21	16人	48万円
岩手県水難救済会大船渡救難所	23.11.18	23.11.28	43人	196万円
岩手県水難救済会宮古救難所	23.9.27	23.12.9	171人	775万円
茨城県水難救済会大津支部救難所	23.8.26	23.12.24	36人	74万円
岩手県水難救済会釜石救難所	23.12.2	24.2.7	44人	199万円
宮城県水難救済会石巻救難所	23.12.20	24.2.20	8人	38万円
宮城県水難救済会表浜救難所	24.2.27	24.3.16	27人	121万円
宮城県水難救済会南三陸救難所	24.2.14	24.3.22	37人	168万円
岩手県水難救済会釜石救難所釜石東部支所	24.3.23	24.4.16	11人	51万円
茨城県水難救済会久慈支部救難所	24.3.1	24.5.18	11人	31万円
宮城県水難救済会関上救難所	24.3.7	24.6.22	26人	118万円
23年度計			430人	1,819万円
累計14救難所			488人	2,065万円



平成24年度 第1回互助会理事会開催状況

## 互助会事務局から

平成24年度の互助会の会員は、平成24年11月30日現在で18,751名です。昨年度の会員数と比較すると1,774名の減となっております。

日本水難救済会救難所員等互助会につきましては、会員

とその家族の相互救済と福利増進を図る観点から各種事業を行うことにより、会員等の生活の安定と福祉に寄与するとともに、日本水難救済会の効率的な事業運営に資することを目的として、平成20年10月に設立しました。この趣旨にご賛同いただき、より多くの方が、互助会に加入していただきますように、よろしくお願いたします。

## (公社)日本水難救済会 平成24年度第2回理事会開催

### マスコットキャラクターの公募や、水難救済会知名度向上に関する質問も

平成24年10月18日、海事センタービル7階会議室において、第2回通常理事会を開催いたしました。理事会の開催にあたり、議長である相原会長の挨拶とご臨席の最勝寺海上保安庁総務部参事官からご挨拶をいただいた後、議案審議となりました。

議案は、

- 第1号議案 「平成25年度日本財団及び日本海事センターに申請する予算(案)について」
- 第2号議案 「新規会員入会の承認について」
- 第3号議案 「日本水難救済会の財産の処分について」
- 第4号議案 「日本水難救済会救難所員等互助会役員推薦(案)について」

について審議され、それぞれ異議なく承認されました。議案審議の後、報告事項として

- (1) 職務の執行状況の報告について(平成24年度事業進捗状況中間報告)
- (2) 東日本大震災被災救難所等の復興について
- (3) 会長諮問事項に対する青い羽根募金運営協議会答申内容の進捗状況について
- (4) 日本水難救済会救難所員等互助会の運営状況について

それぞれ報告がなされ、その後、質疑応答に入りました。

質疑では、「会長諮問事項に対する青い羽根募金運営協議会答申内容の進捗状況について」の「日本水

難救済会マスコットキャラクターの公募について」に関し、「選考に当たっては、マスコットキャラクターが着ぐるみとしても使えるものにして欲しい」、「地方水難救済会でも使用できるようにして欲しい。」との意見がありました。

また、その他として、「水難救済会の知名度について、救難所員が海難救助を実施しても新聞など報道には漁船により救助活動があったとしての扱いであり、水難救済会の名前が出ていない。水難救済会は長い歴史があるのに一般人にはあまり知られていない。水難救済会の知名度を一層上げる必要があると考えるがどのように思われるか。」との意見があり、当会理事長から現状の説明がなされるとともに、「今後、さらに知名度向上に努めるとともに、海上保安庁にも働きかけるなどの対応を進めていきたい。」との発言がなされ、理事会終了となりました。



最勝寺海上保安庁総務部参事官のご挨拶



平成24年度第2回理事会開催状況

## 佐賀県水難救済会唐津マリン救難所に救助船を配属

### 佐賀県初の本会配属救助船。船名は「レスキュー玄海」に

公益社団法人 日本水難救済会では、平成24年11月27日、佐賀県水難救済会唐津マリン救難所に救助船「レスキュー玄海」を配属いたしました。

佐賀県水難救済会への救助船配属は初めてで、12月7日(金)午後1時30分から唐津市ニタ子の唐津市船舶上架施設において、坂井俊之佐賀県水難救済会会長(唐津市長)、向田昌幸日本水難救済会理事長および星野誠唐津海上保安部長等関係者が出席し、同船の披露式が執り行われました。

唐津マリン救難所は、増本善明救難所長をはじめ19名の救助員により、唐津港周辺沿岸における海難救助を実施しているほか、各種海上訓練への参加、夏場における海水浴場の警戒を行っており、今般、救助船が配属されたことから一層の活躍が期待されております。

#### ◆救助船の要目等

船名：レスキュー玄海

船質：FRP

長さ：8.93m

幅：2.38m

深さ：0.75m

総トン数：2.8トン

機関：ヤンマー製

形式：6LP-DT

連続最大出力：151kw(205PS)

就役：平成22年3月



披露式の様子

教職員から見た「若者の水難救済ボランティア教室」

## 人を助け安全に生きぬく力を育てる



ペットボトルを利用した背浮きも体験



海上保安官の説明に、真剣に聞き入る児童たち

昨年の9月7日に、本校で若者の水難救済ボランティア教室を行いました。今回は、日本水難救済会及び東京海上保安部の方々に講師にお招きして、三・五年生が授業を行いました。まず、水に浮く練習を行いました。始めは30秒間浮くことが難しかった子供たちもいましたが、浮くポイント(①顔を空に向ける、②足を開く)を教えていただき、授業の最後には100秒間まで浮くことができるようになりました。

また、自分たちの身近にあるペットボトルを使って、溺れている人を助けることができるということも体験しました。自分の身に何かが起こったときには、何もしないのではなく、自分の命を守るために、何が自分のできるのかを考え、実行することの大切さを教えていただきました。

最後には、潜水訓練で行っている「25メートルの潜水」を見せていただき、保安部の方々の技のすばらしさに驚きを隠せない子供たちがたくさんいました。

今、本校では、東日本大震災等の教訓を受けて、自助(自分の命は自分で守る)、近助(友達や隣人で声をかけ合い助け合う)、共助(地域と連携し自分たちで守る)という視点から安全教育の在り方を見直し、カリキュラムの改訂を進めています。安全教育には、生活

安全、交通安全、災害安全の3領域があり、それぞれに子供たちに確かに身に付けてほしい意識と知識、スキルがあります。それらを意図的・計画的に体系としてまとめ、本校で6年間過ごす子供たちが、どの子も安全に生きぬく力を持つような新たなカリキュラムを策定し、指導を進めていきたいと考えています。

今回、日本水難救済会の皆様のお力添えをいただき若者の水難救済ボランティア教室を実施しましたが、水に対する正しい理解と命を守る確かなスキルの大切さを、子供たち、教職員共々改めて認識することができました。今回いただいた知見を新たなカリキュラムに反映していきたいと思えます。また、次の若者の水難救済ボランティア教室の機会には、保護者や近隣にも対象を広げ、水難からの守る共助の力をさらに高めていきたいと思えます。今回の皆様のご協力に心より感謝申し上げます。ありがとうございます。



昭島市立つつじが丘南小学校長  
石川 博朗氏

## INFORMATION

### ● 日本水難救済会会員募集 ●

日本水難救済会では、会員(2号正会員または賛助会員)となって本会の事業を支援していただける方々を募集しています。

2号正会員資格は、本会の事業目的に賛同して、年会費1口1万円(1口以上)を納付された方で、会員になりますと、総会に出席することにより当会事業に参画できます。

賛助会員は、金品を寄付することにより本会の事業に貢献いただくもので、寄付された方は、法人税・所得税の控除を受けられる特典があります。

希望される方は、当会にご連絡いただければ、入会申込書をお送りいたしますので、必要事項を記入してお申し込み下さい。

### 公益社団法人 日本水難救済会

〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目5番地  
海事センタービル7階

電話：03-3222-8066 FAX：03-3222-8067

<http://www.mrj.or.jp/index.html>

### 編集後記

☆昨年12月、我が国最南東端に南大東救難所が新たに設置されました。開所式に併せて南大東村長を表敬しましたが、村長も救難所の開設に大きな期待を寄せられました。「海の安全・安心を支えるボランティアたちの群像」では、この南大東救難所取材しました。取材に際し、救難所長の知念修様他、所員の皆様と、琉球水難救済会の浅野様には大変お世話になりました。

☆歴史探訪シリーズは、あと2回程度を予定しております。これまでの記事で読者の皆さんは“こんびらさん”の通になられたことでしょうか。

☆当会の知名度アップが課題となっています。地方水難救済会におかれましては、海難救助に際してマスコミ等から取材があった場合、水難救済会の救難所員が出動した旨のアピールをいただければと考えております。また、昨年の第2回理事会でも話題となりましたが、当会の知名度アップのためのツールとして、“マスコットキャラクター”を作ることとしています。デザインを公募していたところ、800点余の応募がありました。これらの中から、アピール性があり親しみやすいものを指標に、3月には決定する予定です。乞うご期待。

☆また、青い羽根募金の知名度も、その歴史の割に、今ひとつと言った状況です。平成25年度のポスターのモデルは、城島健司さんに引き続きお願いする予定です。印刷枚数も増やしますので地方水難救済会におかれましても多数のポスター掲示にご協力をお願いいたします。

☆ホームページやマリネスクージャーナルをさらに充実したものとするため、皆様からの投稿をお待ちしております。

(常務理事 上岡)